

I 2024年度 事業概要

定時社員総会報告

2024年度の定時社員総会は、正会員が一堂に会する形式ではなく、会長および理事・監事の少人数の出席者による開催と、議決権行使書の提出をもって、審議事項の決議を行いました。

6月下旬に事務局より、正会員3名に対し、2023年度年次報告書を含む総会資料一式および議決権行使書を送付し、正会員には、各審議事項に対する賛否を記載のうえ、議決権行使書を提出いただきました。

社員総会に先立ち、2024年7月12日（金）に、「社員総会議事事項に関する説明会」をインターネットを利用した遠隔会議にて開催し、審議事項および報告事項についての説明と質疑応答を実施しました。

その後、2024年7月27日（土）に開催した定時社員総会において、会長および理事・監事が提出された議決権行使書を確認し、全ての審議事項について決議を行いました。

開催日時：2024年7月27日（土曜日） 午前10時30分から午後00時00分

開催場所：東京都千代田区神田須田町 1-5 翔和須田町ビル 2階 法人事務所

出席社員数：総社員数627名、総社員の議決権数627個

出席者の確認：出席社員数521名（議決権行使書による）、出席社員の議決権数521個

定款第18条により、正会員627名中、議決権行使書提出者521名をもって総会が成立することが報告された。

審議事項

【第1号議案】2023年度事業活動報告及び決算承認・監査報告に関する件

第1号議案は516個の賛成を得て承認された。

【第2号議案】理事選任に関する件

第2号議案は516個の賛成を得て承認された。

報告事項

1. 2024年度事業活動計画及び予算に関する件

（1）重点事業について

2024年度重点事業について以下のとおり説明があった。各研修会は会員校にとって有意義な内容で開催し、目的に沿った有効な方法を設定していく。また、新たに地区活動委員会を設置し、会員校の協働を進め地区活動の推進を図る。更に、18歳人口の減少や他領域への女子学生の流入等を見据え、看護大学に興味を持てるように中学生、高校生を取り込み、会員校へ繋げる広報活動を進めていきたいとの報告があった。

（2）2024年度事業活動計画

（3）2024年度特別事業

（4）2024年度予算

2. 規程の整備に関する件

2023 年度 一般社団法人日本私立看護系大学協会 決算書

(2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)

1. 一般会計収支決算書

(収入)

(単位:円)

科 目	2023 年度予算	執行額	予算残	執行率	備 考
会 費	63,200,000	62,900,000	300,000	99%	会 費@ 300,000 × 207 校 入会金@ 200,000 × 4 校
銀 行 利 息	1,000	736	264	73%	普通預金
預 り 金	3,000,000	2,966,215	33,785	98%	源泉所得税、住民税、社会保険料
雑 収 入	0	261,314	△ 261,314	—	研究助成金の返金
(収 入 小 計)	66,201,000	66,128,265	72,735	99%	
前 年 度 繰 越 金	60,435,960	60,435,960	0	100%	
合 計	126,636,960	126,564,225	72,735	99%	

(支出)

科 目	2023 年度予算	執行額	予算残	執行率	備 考
事業費	40,993,000	35,960,290	5,032,710	87%	
大 学 教 育 委 員 会	1,509,000	1,071,239	437,761	70%	研修会を Web 開催に変更したことによる経費削減
研 究 活 動 委 員 会	614,000	486,860	127,140	79%	
研 究 助 成 事 業	7,933,000	7,677,844	255,156	96%	
国 際 交 流 委 員 会	822,000	736,801	85,199	89%	
大学運営・経営委員会	1,928,000	1,467,964	460,036	76%	
渉 外 委 員 会	111,000	91,036	19,964	82%	
広 報 委 員 会	4,243,000	4,237,434	5,566	99%	
将来構想検討委員会	333,000	146,564	186,436	44%	委員会を Web 開催に変更したことによる経費削減
人 件 費	9,000,000	7,761,492	1,238,508	86%	事務局員、総会人件費等
消 耗 品 費	2,000,000	1,778,431	221,569	88%	会長表彰記念品代等
旅 費 交 通 費	1,500,000	841,555	658,445	56%	理事会等旅費等
通 信 費	500,000	360,230	139,770	72%	振込手数料、切手等
印 刷 費	100,000	96,420	3,580	96%	封筒印刷等
賃 借 料	3,500,000	3,385,164	114,836	96%	事務所賃料等
会 議 費	600,000	516,442	83,558	86%	総会、理事会等
業 務 委 託 費	1,300,000	794,755	505,245	61%	動画配信サーバー保守料等
特別事業(地区活動経費)	5,000,000	4,510,059	489,941	90%	
管理費	14,530,000	13,593,635	936,365	93%	
人 件 費	7,500,000	7,273,396	226,604	96%	事務局人件費
消 耗 品 費	800,000	583,701	216,299	72%	文具、会計ソフト等
光 熱 水 費	700,000	466,606	233,394	66%	事務所光熱水費
旅 費 交 通 費	80,000	65,400	14,600	81%	監査、選挙管理委員会等
通 信 費	750,000	614,599	135,401	81%	切手、郵送費、電話、振込手数料等
支 払 報 酬 費	30,000	22,396	7,604	74%	メールサーバー代
印 刷 費	200,000	180,497	19,503	90%	コピー機利用料等
賃 借 料	2,800,000	2,755,524	44,476	98%	事務所賃料、リース料等
会 議 費	30,000	8,801	21,199	29%	監査、選挙管理委員会等
業 務 委 託 費	1,500,000	1,494,680	5,320	99%	司法書士、公認会計士業務委託契約料等
保 険 料	50,000	46,955	3,045	93%	家賃保証等
租 税 公 課	90,000	81,080	8,920	90%	法人住民税、収入印紙等
将来事業特別会計繰入金	1,000,000	1,000,000	0	100%	
維持管理特別会計繰入金	0	0	0	—	
退職金引当金繰入額	651,000	650,698	302	99%	
預 り 金	3,000,000	2,819,811	180,189	93%	源泉所得税、住民税、社会保険料
前 期 未 払 金	818,109	818,109	0	100%	
期 末 未 払 金	△ 900,000	△ 945,583	45,583	105%	
予 備 費	5,000,000	0	5,000,000	0%	
(支 出 小 計)	65,092,109	53,896,960	11,195,149	82%	
次 年 度 繰 越 金	61,544,851	72,667,265	△ 11,122,414	118%	
合 計	126,636,960	126,564,225	72,735	99%	

2. 特別会計(特定資産)収支決算書

(1) 2023 年度将来事業特別会計

科 目	2023 年度予算	執行額	予算残	執行率	備 考
前 年 度 繰 越 金	12,260,107	12,260,107	0	100%	
繰 入 金	1,000,000	1,000,000	0	100%	
利 息 収 益	200	104	96	52%	
合 計	13,260,307	13,260,211	96	99%	

(2) 2023 年度維持管理特別会計

科 目	2023 年度予算	執行額	予算残	執行率	備 考
前 年 度 繰 越 金	11,078,358	11,078,358	0	100%	
繰 入 金	0	0	0	—	
利 息 収 益	16,000	15,686	314	98%	
合 計	11,094,358	11,094,044	314	99%	

(3) 2023 年度退職金引当特定資産

科 目	2023 年度予算	執行額	予算残	執行率	備 考
前 年 度 繰 越 金	2,883,716	2,883,716	0	100%	
繰 入 金	651,000	650,698	302	99%	
利 息 収 益	100	9	91	9%	
合 計	3,534,816	3,534,423	393	99%	

2024 年度 一般社団法人日本私立看護系大学協会予算書

(2024 年 4 月 1 日～ 2025 年 3 月 31 日)

1. 一般会計予算

(収入)

(単位：円)

科 目	2024 年度予算	2023 年度予算	差 異	備 考
会 費	62,900,000	63,200,000	△ 300,000	会費@ 300,000 × 209 校 入会金@ 200,000 × 1 校
銀 行 利 息	1,000	1,000	0	普通預金
預 り 金	4,000,000	3,000,000	1,000,000	源泉所得税、住民税、社会保険料
雑 収 入	0	0	0	
(収 入 小 計)	66,901,000	66,201,000	700,000	
前 年 度 繰 越 金	72,667,265	60,435,960	12,231,305	
合 計	139,568,265	126,636,960	12,931,305	

(支出)

科 目	2024 年度予算	2023 年度予算	差 異	備考 (使途・増減の理由など)
事業費	85,686,000	35,993,000	49,693,000	
大学教育委員会	1,820,000	1,509,000	311,000	
研究活動委員会	217,000	614,000	△ 397,000	(研修会開催回数減のため)
研究助成事業	11,990,000	7,933,000	4,057,000	(研究助成応募システム導入完了と採択数増)
国際交流委員会	363,000	822,000	△ 459,000	
国際交流助成事業	2,058,000	0	2,058,000	(助成事業新設のための増額)
大学運営・経営委員会	1,085,000	1,928,000	△ 843,000	(実態調査 5 年分報告書作成費用の減額)
渉外委員会	135,000	111,000	24,000	
広報委員会	4,056,000	4,243,000	△ 187,000	
将来構想検討委員会	233,000	333,000	△ 100,000	
地区活動委員会	500,000	0	500,000	(委員会新設)
地区活動助成事業	6,099,000	0	6,099,000	
50 周年記念事業準備委員会	100,000	0	100,000	(臨時委員会)
人件費	11,000,000	9,000,000	2,000,000	事務局職員増員
消耗品費	2,000,000	2,000,000	0	会長表彰記念品代等
旅費交通費	1,500,000	1,500,000	0	
通信費	500,000	500,000	0	振込手数料、切手等
印刷費	150,000	100,000	50,000	封筒印刷等
賃借料	3,500,000	3,500,000	0	事務所賃料等
会議費	700,000	600,000	100,000	総会等
業務委託費	1,600,000	1,300,000	300,000	
看護学教育推進事業	21,080,000	0	21,080,000	
看護の魅力発信事業	15,000,000	0	15,000,000	
管理費	17,170,000	14,530,000	2,640,000	
人件費	10,000,000	7,500,000	2,500,000	事務局職員増員
消耗品費	800,000	800,000	0	文具、会計ソフト等
光熱水費	550,000	700,000	△ 150,000	電気水道代
旅費交通費	80,000	80,000	0	監査、選挙管理委員会等
通信費	750,000	750,000	0	切手、郵送費、電話、振込手数料等
支払報酬	25,000	30,000	△ 5,000	メールサーバー代
印刷費	350,000	200,000	150,000	コピー機利用料、会長交代挨拶等
賃借料	2,900,000	2,800,000	100,000	事務所賃料、リース料等
会議費	30,000	30,000	0	監査、選挙管理委員会等
業務委託費	1,500,000	1,500,000	0	司法書士、会計士委託契約料等
保険料	85,000	50,000	35,000	家賃保証、火災保険
租税公課	100,000	90,000	10,000	法人都民税、収入印紙等
将来事業特別会計繰入金	1,000,000	1,000,000	0	
維持管理特別会計繰入金	0	0	0	
退職金引当金繰入額	827,000	651,000	176,000	
預 り 金	4,000,000	3,000,000	1,000,000	源泉所得税、住民税、社会保険料
前 期 未 払 金	945,583	818,109	127,474	
期 末 未 払 金	△ 950,000	△ 900,000	△ 50,000	
予 備 費	5,000,000	5,000,000	0	
(支 出 小 計)	113,678,583	60,092,109	53,586,474	
次 年 度 繰 越 金	25,889,682	66,544,851	△ 40,655,169	
合 計	139,568,265	126,636,960	12,931,305	

2. 特別会計 (特定資産) 予算

(1) 2024 年度将来事業特別会計

科 目	2024 年度予算	2023 年度予算	差 異	備 考
前 年 度 繰 越 金	13,260,211	12,260,107	1,000,104	
繰 入 金	1,000,000	1,000,000	0	
利 息 収 益	200	200	0	
合 計	14,260,411	13,260,307	1,000,104	

(2) 2024 年度維持管理特別会計

科 目	2024 年度予算	2023 年度予算	差 異	備 考
前 年 度 繰 越 金	11,094,044	11,078,358	15,686	
繰 入 金	0	0	0	
利 息 収 益	16,000	16,000	0	
合 計	11,110,044	11,094,358	15,686	

(3) 2024 年度退職金引当特定資産

科 目	2024 年度予算	2023 年度予算	差 異	備 考
前 年 度 繰 越 金	3,534,423	2,883,716	650,707	
繰 入 金	827,000	651,000	176,000	
利 息 収 益	100	100	0	
合 計	4,361,523	3,534,816	826,707	

理事会報告

第1回定例理事会

【開催日時】2024年6月2日（日曜日）9時00分から10時40分

【報告事項（1）】

1. 役員候補者選出選挙について

臼井雅美選挙管理委員会委員長より選挙人・被選挙人の登録状況、投票結果、投票状況等の報告があった。次に、役員候補者及び補欠監事候補者と理事次点者の報告があった。誤記入による無効票の削減、投票及び開票作業の合理化のため電子投票システムの導入についての検討が提案された。

【審議事項】

1. 選出された新役員候補者及び指名理事について

役員候補者選出選挙により選出された新役員候補者と理事次点者を確認した。指名理事候補者については、次期理事会は新しい理事が多く、特別事業（看護の魅力発信事業とポストコロナにおける看護学教育推進事業）を実施することから、これらの担当委員会となる、将来構想検討委員会と広報委員会を現在兼務している鎌田佳奈美理事を指名することとした。以上をもって役員候補者選任案とし社員総会に提出し承認を得ることとした。

2. 2024年度社員総会について

三国久美業務担当理事より説明があり社員総会の審議事項と報告事項は承認された。社員総会は、7月27日（土）に開催する。

3. 2023年度事業活動報告について

各委員会委員長より2023年度事業活動報告と会計内訳について説明があり承認された。

4. 2023年度決算（案）について

長澤正志財務担当理事より説明があり、2023年度決算は社員総会に提出し承認を得ることとした。

5. 監事監査について

監事監査報告書に基づき、加藤令子監事より説明があった。

6. 2024年度特別事業について

島袋香子議長より看護の魅力発信事業とポストコロナにおける看護学教育推進事業について説明があった。

7. 2024年度重点事業（案）について

島袋香子議長より説明があり承認された。

8. 2024年度事業活動計画（案）について

島袋香子議長より事業活動計画全体の説明があり、各委員会より事業活動計画案の説明があり承認された。

9. 2024年度予算（案）について

長澤正志財務担当理事より説明があった。

10. 2024年度新規会員校について

三国久美業務担当理事より説明があった。大阪歯科大学看護学部看護学科、北里大学健康科学部看護学科、仙台青葉学院大学看護学部看護学科の3校の入会が承認された。

【報告事項 (2)】

1. 内部監査について

長澤正志財務担当理事より報告があった。

第2回定例理事会

【開催日時】2024年7月27日（土曜日）14時00分から15時00分

【決議事項】

1. 代表理事の選定について

社員総会の終結時をもって役員全員が退任し、新役員全員が就任した。2024年度新会長の選定は、定款第25条第5項に基づき、原玲子氏を代表理事として選定することについて提案があり、出席した理事の全員一致をもって承認可決され、原玲子理事はその就任を承諾した。

【審議事項】

1. 2024年度日本私立看護系大学協会組織について

副会長は荒木暁子理事、洪愛子理事、業務執行理事2名のうち財務担当理事は櫻井しのぶ理事、業務担当理事は鎌田佳奈美理事となった。各委員会の担当理事と委員長について決定した。

2. 2024年度研究助成事業採択者について

野末聖香前研究活動委員会委員長より選考基準と選考の経緯、今年度の募集状況について説明があり、看護学研究奨励賞20名、若手研究者研究助成13名、国際学会発表助成7名を採択することが承認された。

【報告事項】

1. 2024年度自民党看護問題小委員会への要望書提出について

原玲子議長より要望書案についての説明があった。2023年度は、本協会と自民党石田参議院議員、日本看護系大学協議会、文部科学省と厚生労働省の五者で会議が行われ、本協会の要望書の内容をより明確に説明した。また、要望書は提出する団体の数が多い方が良いとされているため、自民党看護問題小委員会では、看護連盟が看護系団体を取りまとめて発言していると説明があった。

2. 2024年度特別事業について

ポストコロナにおける看護学教育推進事業、看護の魅力発信事業の2つの特別事業について説明があった。

第3回定例理事会

【開催日時】2024年11月30日（土曜日）15時00分から16時15分

【審議事項】

1. 規程等の改正について

内容に影響の少ない軽微な改正については一括承認され、改正内容の検討が必要な箇所は個別に審議し承認された。研修会の動画配信に関する運用内規、事業活動会計取扱規程、経理規程、

経理規程施行細則、出張旅費取扱規程、有期雇用職員就業規則、慶弔見舞金規程、研究助成事業施行細則を改正した。

2. 50 周年事業について

開催日は 2026 年 7 月 10 日（金）。開催形式は対面および Web のハイブリッド形式とし、記念講演、シンポジウム、記念誌発行、懇親会を企画し、50 周年記念事業準備委員会は執行部理事が担うことが確認された。

【報告事項】

1. 各委員会事業活動報告及び会計内訳

事業活動報告書と会計内訳に基づき、大学教育委員会、研究活動委員会、国際交流委員会、大学運営・経営委員会、渉外委員会、広報委員会、将来構想検討委員会、地区活動委員会の事業活動報告があった。

2. 2024 年度特別事業について

ポストコロナにおける看護学教育推進事業の実施状況の報告があった。また、看護の魅力発信事業について、将来的には訴求対象を拡大することを検討することも大切であるが、SNS 利用の年齢制限や若年層の社会的課題にも配慮が必要であり、今回は高校生をメインターゲットとして活動を進めていくこととした。

3. 中期決算書について

執行率は例年とはほぼ同様の推移であり、全体的には適切な執行率であると説明があった。

4. 会長表彰の副賞について

2024 年度の会長表彰の副賞は図書カード 5,000 円分と報告があった。これまで副賞であったナースばさみは、多くの学生は既に持っており物価上昇の影響からも取りやめることとした。

第 4 回定例理事会

【開催日時】 2025 年 2 月 28 日（金曜日）9 時 00 分から 10 時 30 分

【報告事項】

1. 2024 年度事業活動報告と予算執行状況について

事業活動報告書と会計内訳に基づき、大学教育委員会、研究活動委員会、国際交流委員会、大学運営・経営委員会、渉外委員会、広報委員会、将来構想検討委員会、地区活動委員会の事業活動報告があった。

2. 看護の魅力発信事業について

株式会社進研アドと協力し動画を制作・配信し、特設 Web ページでは「看護の多様な可能性」を公開した。また、高校の探究学習へのアプローチとして、朝日新聞社の副教材に看護と社会課題に関する記事を掲載し、全国 2,525 校・18,550 冊を配布した。さらに、TikTok・Instagram・YouTube で、看護の多様な可能性を示す動画広告を配信した。

3. 2024 年度決算について

事業費の執行率は 63%、管理費の執行率は 76%である。1 月 31 日時点の決算書であり、2024 年度決算は 2025 年度第 1 回定例理事会において確定する。

4. 若手研究者研究助成研究期間の延長について

2023年度の採択者から研究期間延長届の提出があり、委員会において現在の進捗状況、研究期間を延長した場合の具体的な研究方法や今後の見通し等について検討し延長を認めたと報告があった。

【審議事項】

1. 2025年度事業活動計画と予算について

2025年度事業活動計画と予算案に基づき審議した。大学教育委員会、研究活動委員会、国際交流委員会、大学運営・経営委員会、渉外委員会、広報委員会、将来構想検討委員会、地区活動委員会より説明があり、各委員会において継続検討することとした。

2. 2025年度重点事業について

教職員を対象とした研修会の充実。地区活動、将来を見据えた本協会の組織・活動のあり方の検討の3点を重点事業とする。

3. 2025年度予算案について

正式な予算の決定は次回理事会で確定する。一般会計の収入では新たに会員校2校を加えた211校を想定して収入を計上してある。事業費は各委員会の事業活動計画に基づいて計上し、管理費は2024年度の実績をもとに計上する。

4. 役員候補者選挙の電子投票の導入について（役員候補者選出規程の改正）

これまでは郵送による投票であったが、郵便料が高騰しており、投票の合理化も図れることから電子投票を導入することとした。多くの学会等での利用実績があり、経費も比較的安価である株式会社東京コンピューターシステムのシステムを採用する。次に、電子投票の導入に伴う規程の改正について審議され、第11条第2項（投票及び開票）は「選挙の投票方法は、電子投票とする。」と定める案が示され承認された。

5. 名誉会長の称号授与に関する規程の改正について

名誉会長の称号の付与については、これまで4年以上会長として任務にあたった者に授与すると定めていたが、根拠を持たせ、役員候補者選出規程に定める理事任期の上限と同じ年数である6年以上と改めることとする。

6. 2025年度社員総会について

2025年度社員総会はWebによる事前説明会および議決権行使書（郵送）による決議とし、議事事項に関する説明会を7月11日（金）にインターネットを利用した遠隔会議で開催することとした。社員総会付帯事業（講演）については執行部理事に一任された。

7. 50周年記念事業について

記念事業は2026年7月10日（金）に対面とWebによるハイブリットの開催を予定している。記念講演の講師依頼はこれからのため変更の可能性がある。50周年記念誌については歴代の会長、日本看護協会、日本看護系大学協議会などへ寄稿を依頼し、COVID-19流行時の対応に関しても掲載する予定とした。

会長表彰

完成年度を迎えている会員校からの推薦に基づき、卒業生に表彰状および記念品を贈呈しました
(対象校 199 校のうち 196 校より推薦があり、推薦率は 98.5% でした)。

(表彰状)



(記念品)



Ⅱ 2024年度 事業活動報告

1. 大学教育委員会

1. 趣旨

- ①教育内容（カリキュラム）、方法、評価の調査研究
- ②教員組織、教員の質・能力向上、教育能力・施設設備の調査研究
- ③教育に関するセミナー、ワークショップ等の実施

2. 担当理事および委員（○：委員長）

○安酸 史子（日本赤十字北海道看護大学）

江川 隆子（関西看護医療大学）

太田 勝正（東都大学）

小原 泉（自治医科大学）

（委員）

前田 樹海（東京有明医療大学）

3. 2024 年度事業活動報告

（1）研修会の開催

1）新任教員向け研修会「大学教育とは」

目的：私立大学の教職員として基本的知っておかなくてはならない考え方や、教育課程、私立大学法の改革に至る経緯や置かれている現状について学ぶ。

講師：島袋 香子 氏（北里大学）

日時：2024 年 8 月 3 日（土） 10：00～14：20

開催方法：（当日）会場開催、Zoom ウェビナーを用いたライブ配信（講演のみ）、（後日）オンデマンド配信

プログラム：

（午前の部）

10：00～10：10 開会挨拶

10：10～11：10 講演「私立看護系大学を理解する」

講師：島袋 香子 氏

11：10～11：20 質疑応答

11：20～12：20 休憩

（午後の部）※午後の部は会場開催のみ

12：20～13：20 グループワーク

13：20～14：15 発表・質疑応答

14：15～14：20 閉会挨拶

当日参加者：会場参加 16 名、Zoom 参加 73 名、グループワーク参加 16 名

動画配信期間：2024 年 8 月 8 日～11 月 8 日

講演概要

「私立看護系大学を理解する」

講師：島袋 香子（北里大学）



島袋香子先生によるご講演「私立看護系大学を理解する」では、私立大学を設置運営する主体である学校法人に関する主な法律や私学における教員の責務と役割について解説がなされた。教育基本法や学校基本法は学校組織・教育のあり方についての規律であるが、学校法人においては私立学校法や私立学校振興助成法など学校法人の組織・会計・補助金等に関する規律も知る必要があり、それぞれの法律の中で大学や私学についてどのように規定されているのか、ポイントとなる事項が説明された。私立学校法の目的に「自主性を重んじ、公共性を高める」と記されているのは、大学の理念に基づき特性を活かして、誰に対しても開かれている必要性を意味しているとの説明があり、私立大学のあり方について参加者の理解が深まったと思われる。私学における教員の責務と役割についても、私立学校法における記載をもとに「自主的な運営基盤の強化」、「教育の質の向上」、「運営の透明性の確保」といった主要事項の解説があった。特に「教育の質の向上」については、3つのP（DP：ディプロマポリシー、CP：カリキュラムポリシー、AP：アドミッションポリシー）の実質化から内部質保証システムを機能させ、学業成果の把握・可視化していく意義が説明された。参加者からのアンケートには「大学教育に関連する法的な根拠や制度、仕組みを知ることができた。」「大学教育ならびに私立大学の役割について学ぶことができ、これからの教員としての姿勢を考えることができた。」等のコメントがあり、アンケート回答者の99%が内容について「大変満足」あるいは「満足」と回答していた。

午後のグループワークでは、4つのグループに分かれて、島袋先生のご講演内容から学んだこと、気づいたことなどを各グループで自由に意見交換していただいた。1時間の意見交換の後、各グループからの発表と質疑応答の時間を55分設けた。大学教員のキャリア形成、学生との向き合い方、臨地の看護職とは異なる教員の役割・機能に関する困難、教育の質の確保方法などについて活発に話し合われたことが報告された。参加者からのアンケートでは、「日頃のモヤモヤが共有いただけ、示唆が得られた。」「このような機会がなければ繋がることのできなかった先生方と知り合うことができ、とてもよかった。」「普段は学務に追われて教育についてじっくり話し合う時間をもつことが難しいが、他大学の先生方と率直に話し合うことができ、自分がジレンマを感じている事柄を認識することができた。本日気づいた問題意識に向き合い、さらに教育・研究能力を向上させたいと思った。」など、満足度の高いグループワークであったことが記されていた。

進行を担当した立場ではあるが、グループワークで語られた新任教員の困難感は若手の教育・研究者を支援する上で得るところがあった。参加者の反応から、新任教員を対象とし、大学教育とは何かを学ぶ本研修は大変有意義といえる。今後も、私立の看護系大学の新任教員を支援

する機会を継続的に提供していきたいと考える。

報告者：小原 泉

2) 喫緊の課題についての研修会「看護系大学における特別な支援を必要とする学生への教育支援の実際」

目的：特別な支援を要する発達障害傾向の看護学生の特徴や具体的な教育支援の実際を学び、教職員に必要な能力を向上させるための示唆を得る。

講師：西村 優紀美 氏（元富山大学 保健管理センター 准教授）

ファシリテーター：日高 艶子（聖マリア学院大学）、小浜 さつき（聖マリア学院大学）、北川 明（順天堂大学）

日時：2025 年 1 月 25 日（土） 10：00～14：30

開催方法：（当日）会場開催、Zoom ウェビナーを用いたライブ配信（講演のみ）、（後日）オンデマンド配信

プログラム：

（午前の部）

10：00～10：10 開会挨拶

10：10～11：10 講演

11：10～11：30 質疑応答

11：30～12：30 休憩

（午後の部）※午後の部は会場開催のみ

12：30～14：00 事例検討会

14：00～14：25 発表・質疑応答

14：25～14：30 閉会挨拶

当日参加者：会場参加 14 名、Zoom 参加 80 名、グループワーク参加 15 名

動画配信期間：2025 年 2 月 4 日～5 月 4 日

動画視聴回数：746 回

講演概要

「看護系大学における特別な支援を必要とする学生への教育支援の実際」

講師：西村 優紀美（元富山大学 保健管理センター 准教授）

合理的配慮が義務化された状況の中、各大学における喫緊の課題として特別な支援を要する発達障害傾向の看護学生の特徴や具体的な教育支援の実際を学び、教職員に必要な能力を向上させるための示唆を得ることを目的とし、ハイブリッドによる研修会を開催した。会場参加 14 名、Zoom 参加 80 名であった。午前中の西村 優紀美 氏（元富山大学 保健管理センター 准教授）による



ご講演「看護系大学における特別な支援を必要とする学生への教育支援の実際」では、1. 障

害学生支援、2. 特別な支援を必要とする学生①発達障害の特性がある学生に対する教育支援・合理的配慮、②精神障害の診断がある学生に対する合理的配慮、3. 資格取得に係る学部学科で懸念されること、4. 実習における支援のポイントについて解説された。最初に障害のある学生の修学支援に関する検討会報告の第三次まとめの対象範囲や大学等に求められる取組、財政支援について丁寧に紹介された。また合理的配慮の提供について具体的に解説された。資料にはより詳しく調べるための QR コードも掲載された。最後に発達障害のある学生の特性と学習支援について、事例を紹介しながら具体的に解説された。

午後の事例検討会では、ファシリテーターとして、日高艶子氏（聖マリア学院大学）、小浜さつき氏（聖マリア学院大学）、北川明氏（順天堂大学）に入っていただき、対面参加者 15 人が 3 グループに分かれて、ファシリテーターから提供された事例をもとに事例検討会を行った。1 時間半の事例検討会の後に約 30 分の発表と質疑応答を行った。

アンケートでは、西村氏の講演について、「どこまでが合理的配慮か」や「何が合理的配慮か」について、非常に納得が이었습니다。」「学生の特性に合わせた支援の具体をご提示いただき、大変参考になりました。」等、高評価であった。現地の参加者は少人数であったが、事例検討会に参加した人からは、他大学の先生方と話し合うことで大変勉強になったという感想であった。次回希望するテーマについては、発達障害のある学生支援について継続して実施してほしいとの希望が多かった。

進行役を担当した立場からは、合理的配慮が義務化した状況の中で、発達障害傾向のある学生への対応でかなり困難さを実感している大学教員が多いことが実感でき、今後も特別な支援を必要とする学生に関する学習支援についての適切な情報提供と具体的な事例での検討を重ねていく意義を痛感したため、次年度も同様の研修を提供していきたいと考えた。

報告者：安酸 史子

(2) 看護学教育教材開発の助成事業の実施に向けた検討

教材（成果物）の著作権や採択方法などの課題があり、まずは協会としての方針を定める必要がある。また、1 件あたりの助成額は高額になることが想定され、本協会の財務状況からも急速な実現は難しいとの結論に至った。

(3) 教員組織ならびに教員の質と能力向上のための制度についての検討

カナダ・オンタリオ州看護協会の看護師登録制度について情報収集を行った。その中の「過去の犯罪と判決」の申告内容と取り扱いの考え方等をもとに、それらを看護教員採用時に活かす方法について検討を始めた。

(4) 委員会の開催

第 1 回大学教育委員会

日時：2025 年 2 月 5 日（水） 15：00 ～ 15：40

開催方法：Zoom を用いた Web 会議

出席者：太田 勝正、小原 泉、安酸 史子

議題：

- 1) 研修会の振り返り
- 2) 2024 年度事業活動報告について
- 3) 2025 年度事業活動計画案について
- 4) 今後のスケジュールについて
- 5) その他

4. 今後の課題

看護学教育を取り巻く社会の変化が激しい中、長期的な事業活動は具体的な計画が立てにくい状況にある。

情報化の変化への対応や新カリキュラムの運用に関する情報を共有し、教育方法の工夫や開発による「教育の質」の更なる向上のための長期計画へと発展させていく年度としたい。又、本協会の会員校である私立大学のもつ多様なニーズを把握し、私学の特色を生かした事業を企画していく必要がある。

一般社団法人日本私立看護系大学協会 大学教育委員会
 新任教員向け研修会「大学教育とは」当日参加者アンケート結果
 当日参加者：会場参加 16 名、Zoom 参加 73 名、オンデマンド配信視聴者：529 名
 アンケート回答者：109 名

会場開催、Zoom を用いたライブ配信

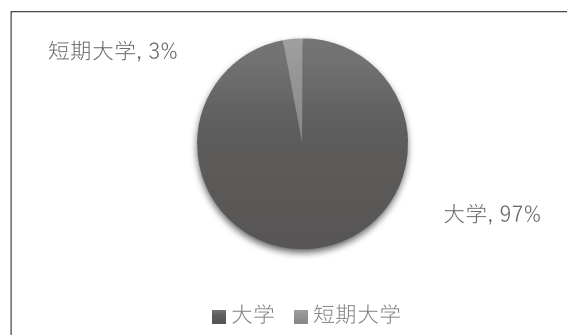
開催日：2024 年 8 月 3 日（土）

オンデマンド配信：2024 年 8 月 8 日～11 月 8 日

1. 参加者について

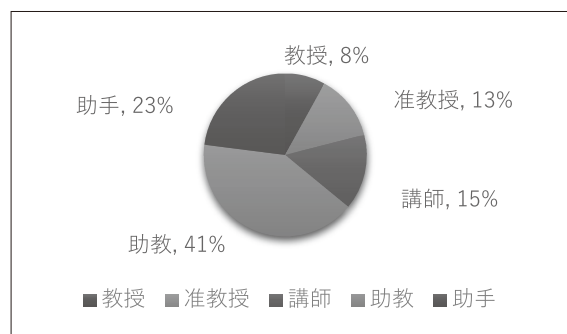
①所属

	人数	割合
大学	105 人	97%
短期大学	3 人	3%
合計	108 人	100%



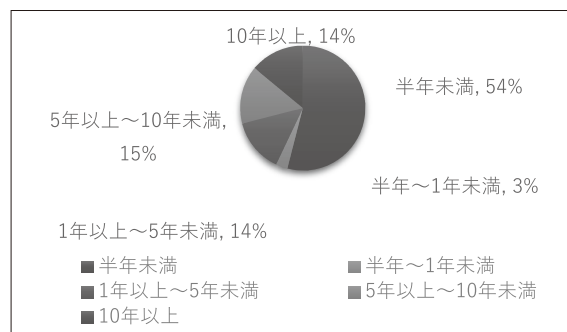
②職位

	人数	割合
教授	9 人	8%
准教授	14 人	13%
講師	16 人	15%
助教	44 人	41%
助手	25 人	23%
合計	108 人	100%



③在職期間

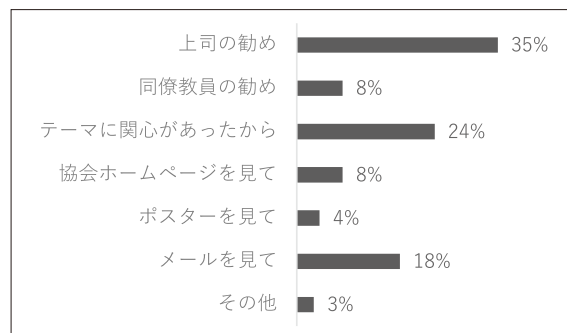
	人数	割合
半年未満	58 人	54%
半年～1 年未満	4 人	3%
1 年以上～5 年未満	15 人	14%
5 年以上～10 年未満	16 人	15%
10 年以上	15 人	14%
合計	108 人	100%



④参加のきっかけ（複数回答可）

	人数	割合
上司の勧め	52 人	35%
同僚教員の勧め	11 人	8%
テーマに関心があったから	36 人	24%
協会ホームページを見て	11 人	8%
ポスターを見て	6 人	4%
メールを見て	27 人	18%
その他	5 人	3%
合計	148 人	100%

（その他の内容）
大学 FD・SD の一環、組織のすすめ



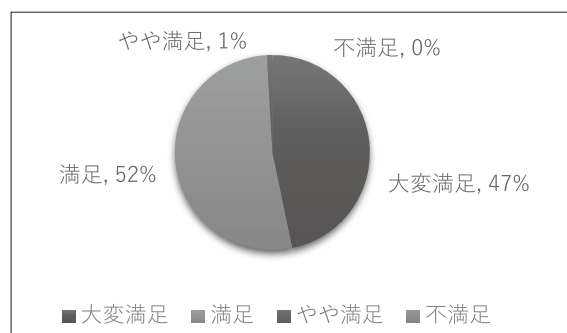
2. 講演について

①「私立看護系大学を理解する」

講師：島袋 香子 氏（北里大学 学長）

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	51 人	47%
満足	57 人	52%
やや満足	1 人	1%
不満足	0 人	0%
合計	109 人	100%



2) ご意見、感想など

- ・ 普段知ることのない、大学組織についての内容があってよかった。
- ・ 大学教育に関連する法的な根拠や制度、仕組みを知ることができました。
- ・ 私学の看護大学教員について、これまでは曖昧だったところが理解できました。
- ・ 普段なかなか意識することが難しい法律について知る機会になってよかった。教育の質向上に向けた取り組みのスライドが理解しやすかった。
- ・ 大学運営や組織についての内容が、自分の中で曖昧であったので、良かった。
- ・ 本来学内で共有すべき話ではあるのですが、大学が何を指すべきなのか、現時点での国内の状況も踏まえて考えることができました。自分ひとりの力は小さいですが、今後どのような能力を身に付けていくべきか参考になったと思います。
- ・ 私立大学の仕組みに改めて興味を持ち、自身での学びだけで不確かだった部分や、これからの私立大学の課題、また自分自身が教員としてどうなっていくべきかの指針を見直す機会となりました。
- ・ 実践現場から進学や大学教育を目的として教員となりましたが、日々手探りの状況にあります。今回の講演を拝聴し、大学教育ならびに私立大学の役割について学ぶことができ、自身のこれからの教員としての姿勢を考えることができました。
- ・ 看護教員として看護を教えることを軸に考えておりましたが、大学教員としての役割として、研究は自分のために自ら実践していくもの、との考えに自分の考えを改めなくてはならないのだと

実感いたしました。

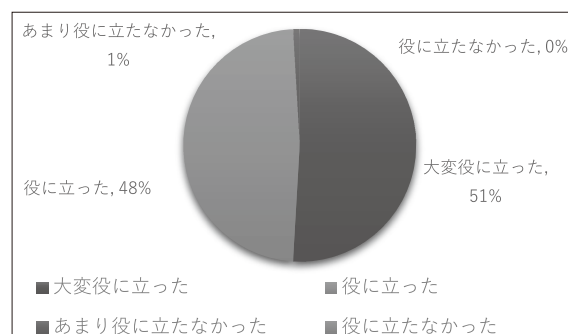
- ・当大学の学部長も同じことを言っていました。全てがなるほどと思いました。
- ・大学、私立大学で働くことについて、若い先生方にとってどのような知識が必要かということをおぼことができました。
- ・大学教育の基本について、大まかにはわかったつもりでいたが、今回の研修会を受け、その中身を詳しく知ることができた。
- ・組織の役割と3つのポリシーの重要性について理解できた。
- ・私立看護系大学に関連する法をおぼすることで、私立看護系大学の教員としてあるべき姿を考える機会となった。
- ・学校法人に関する法律や大学教育の基本など教育に携わっていく中で必要な知識を得ることができました。
- ・内容も非常に分かりやすく理解できました。教学できるよう自己研鑽への意欲が高まりました。
- ・学内に設置されている様々な委員会組織や審議の場について、大学運営の視点から理解を深めることにつながった。
- ・看護系大学における基本的な法律、運営についておぼすることができました。最後から2枚目のスライドで、他国と比較して日本の博士課程進学率が低い理由が気になりました。博士号を取得した時の給与面への影響が低いことや、出る杭は打たれるといった文化が影響しているのかなと感じています。興味関心を持って探求した結果、博士号がとれるのが理想ですが、モチベーションを維持するために、博士号を取得した後の人生の豊かさ（経済的にも精神的にも）をイメージできる環境も必要のかなと感じました。
- ・今年度より助教となり、より自分の教育のあり方を考える機会が多かったため、自分の思考のあり方の指標をいただきました。とても、有意義な講演でした。
- ・改めて私立大学としての役割、責務について知ることができました。先生がお話しされていた「できない学生をできるように導く」、いつも講義や演習、実習でくじけることが多いのですが…頑張りたいと思います。また教育学について体系的に学ぶ機会がなく、経験則で教授する場面もあるため、このように教育や制度についてうかがう機会は貴重でした。
- ・自身、公立大学から初めて私立大学に移り、わからないながらにやってきました。新任教員を迎えるにあたり、なんとなく理解していたことをきちんと学び直せました。
- ・講義も資料もわかりやすかった。
- ・基本的に知っておかなければならないことについておぼすることができました。できれば入職後にこのような機会を持つことができたらと思います。また、自分自身で情報を得る力が非常に大事であると感じています。
- ・私立大学に就職して戸惑うことが多かったので私学教育についての概要が理解できました。
- ・法律などわかりにくいと思っていたことが、とても分かりやすく解説していただけたので、私立大学の運営や教育に改めて興味を持ちました。今後の自身の大学教員としての在り方、どんな学生を育てる必要があるのか等について考えさせられました。
- ・初めて大学教員になりました。まさにすぐ実務に入った状態で今回の講演内容についてを知ることができ、改めて責任のある職務と気が引き締まりました。事例を交えたお話、とても分かりやすかったです。最後の研究についての回答には刺さるものがありました。忙しいを上回る探究心をもつ努力をしたいと思います。
- ・教授会での審議、学校法人の運営など、今回の講演で初めて理解できた部分が多くありました。自分が直接関わらないとしても、組織の一員として自覚を持ち、把握しておかなければならないと思いました。
- ・大学教育について何も知らずに転職したので、今日講演を聞いて、今大学で行われていることの意味付けができました。

- ・教員としてなにを目指していくのか、法律の位置づけを伺い理解できました。
- 所属大学の建学の精神や3つのポリシーに基づき、学生の成長を信じて、その能力を伸ばせるような教員になるために努力をしたいと思いました。また、現在他学の博士課程で研究をしていますが、現場の課題解決に貢献と看護の発展のために頑張ろうと思いました。
- ・大学に勤務して1年以上経過していますが、大学について、ほとんどわからない状態でした。本日、島袋先生の講演を拝聴し、大学のこと、教育・研究についてわかりやすく学びが多い講演でした。教員として精一杯努めてまいりたいと思います。
- ・私立大学教員として求められることを理解し、非常に重たく受け止めています。自身は現実的に何ができて何ができないのか、リソース活用や組織との交渉でクリアできるのかについて考えてみます。
- ・わかりやすかったです。
- ・大学で働いてから細やかに教えていただく環境ではないと常々感じています。見よう見まね、または失敗から学ぶという環境の中、大学教育について法的根拠をもとに理解することができました。
- ・講演前は資料を見て難しそうな内容だと思っていたのですが、とても分かりやすく説明していただき、私立大学に関する法律や仕組み、教育のことなど、よく分かりました。
- ・状況をよく飲み込めていないまま、教育を行っていたのでよく理解できた。
- ・経営のことを考えて学生に関わっていく必要があることがわかった。
- ・私立大学を支える法的根拠を認識することができました。
- ・大学、私立大学という組織の経営などを含めての内容について丁寧にわかりやすく講義されていたので理解につながりました。自分をどのように育てていくかについてもわかりました。
- ・基本的なことを学べた。
- ・私立看護系大学を理解しているか問われた際に、自信がなく、ご講演を拝聴させていただきました。現在の大学において、定員を埋めること、国家試験に合格させることの2点に集中しており、人間力の育成ということが疎かになっていたのではないかと自省の念に駆られております。定員を満たすことや国家試験合格も大切ではあるのですが、本質ではなく、どのような人材を育成していくかを常に考えていかなければならないと改めて感じました。毎日の業務が煩雑であることを理由に、自己研鑽への怠慢を痛感しました。自分の教育力、研究力、社会力を研鑽していき、魅力ある看護学、魅力ある大学づくりを自分なりに目指していきたいと思っております。
- ・島袋先生のご講演は、とても分かりやすく、本日聴講する機会を持てて、感謝致します。
- ・教育面、経営面に關し、どちらも丁寧に説明いただけたため理解しやすかった。
- ・公立大学から私立大学へ異動したばかりで、求められる仕事内容が大きく異なったり学生の質が大きく異なり、戸惑っていたところでしたので、基盤となる法律や大学／私学の課題を整理していただいて、とても勉強になりました。
- ・私立学校法の改正について知り、なかなか意識できないところでしたので、勉強になりました。
- ・前職は公立専門学校だったので、組織の特徴等わからない状態だったが、理解できた。
- ・これまで私立大学の知らなかった部分を知ることができ、知識を1つ増やすことができた。
- ・大学における教育に関する法律や私立大学の運営に関する法律を学ぶ良い機会となりました。
- ・大学教育について考える機会になった。
- ・大学教育における組織体制の意味や今後の方向性等を理解することができ有意義だった。
- ・私立大学の運営について知ることができた。

3. 研修会全体

1) 企画について

	人数	割合
大変役に立った	55 人	51%
役に立った	52 人	48%
あまり役に立たなかった	1 人	1%
役に立たなかった	0 人	0%
合計	108 人	100%



2) ご意見、感想など

- ・大学教員として、教育や研究分野だけではなく、設置基準や運営に関しても知っておく必要があると思った。
- ・とても解りやすかった。
- ・大学内ではこういったオリエンテーションはなかなか難しいので、新任教員にはお勧めしたい。オンデマンド教材としてもよいと思う。
- ・今年から私立大学の教職員として職務についている為、今回のテーマ研修はとても興味があり、参加させていただき、内容を理解することができたので良かったです。
- ・今後に大変役に立つ、また意義のあるご講演を企画いただきありがとうございました。
- ・ハイブリッドで企画していただきましたので、会場に伺えなくてもこの研修に参加できました。
- ・具体的な看護教育をしていくための土台（運営母体について）が理解できました。今後、看護教育がどのような方向に進んでいくのかも知ることができ、自身の教育の方向性に役立ちそうです。
- ・私立大学で仕事していく上で理解しておくべき内容が簡潔でわかりやすかったです。
- ・今回はオンライン参加でしたが、次回は現地で参加して、他の参加者の皆様と交流したいと思います。
- ・大学に初めて勤務する教員として大変役に立つ企画だと思いました。時間が許すのであれば教員の責務と役割をもう少し詳しくお聞きしたかったと思いました。
- ・新任教員として数か月を経た時期の企画として最適でした。自身がこれから何を重要視して生きるのかについて考える契機になりました。
- ・普段、学校ではなかなか聞けない話が聞けて大変役に立ちました。
- ・関係法規だけでなく、近年の情勢（大学経営の透明化の必要性、少子化）も盛り込まれており、大変勉強になりました。
- ・新任教員としては、内容や進め方もとても友好的であったと思いました。
- ・私立大学の教員として基本的に知っておくべきことだと思いました。
- ・今回の講義の中にもありましたが、研究についてお聴きしたいです（科研費など研究費のことなど）。
- ・継続して研修をして頂きたいと思います。
- ・教員として経験が浅いため、非常に身になるテーマであった。
- ・オンデマンドにいただいたおかげで、聴講できました。会場だけでは、参加できなかったと思いますので、オンデマンドはありがたいと思いました。
- ・改めて私立大学の役割がわかった。
- ・大学に入れた学生をどう育て社会に出していくかという、各学生への個別性に合わせた柔軟な対応が必要だとわかった。
- ・分かりやすい講演でした。
- ・大学組織の理解に役立った。

4. 今後、本協会「大学教育委員会」で行う事業について

①希望するテーマ

- ・私立大学ならではのことが入っていたので、良かったと思います。18歳人口の減少により入学生数の減少が今後も継続する中で、どうやって生き延びていくとよいかは本当は知りたいです。
- ・看護研究、実習指導、学生支援について
- ・インストラクショナル・デザインの看護の授業への活用について
- ・魅力のある授業について、同じ領域のグループを作り、同じテーマで10分授業の展開を各グループでやりながら、ディスカッションしたい。グループの参加者は匿名とする。
- ・新任教員に対しての、授業方法について
- ・3つのポリシーに対する教員の具体的な関わりや学生を引き付ける教授方法など
- ・国公立と比較し、私立では学生間での学力差が開きやすい傾向にあると考えます。個別性のある教育をしていくうえで求められる能力に関する講演を希望いたします。
- ・大学の教育力の向上にむけた具体的な取り組みについて
- ・要配慮学生に対する教育のあり方
- ・入学前教育をコロナ禍で過ごしてきた学生の学習能力や心理的变化を感じておりそこに対する大学教育のあり方
- ・学生人数が多く、講義や演習、実習などで教員の細やかな対応が難しい場合について他大学の先生方がどのように工夫されているのか、体験例など
- ・教育成果について、客観指標を実際行っている大学の情報共有があるといいと思いました。
- ・教育を並行した研究活動および研究時間確保のための具体的方法、取り組みについての揭示、ロールモデルの紹介。教育を並行した研究活動を支えるための組織あるいは上司としての研究者に対する具体的支援方法の揭示・ロールモデルの紹介。
- ・新人教育について、社会人基礎力について
- ・学力が様々な私学の学生に対する教育に必要な教員としての姿勢について
- ・少子化と大学教育（少子化が進んでいく中での、大学教育の在り方）
- ・学生にとっての教育の質は何で図るのか（学生の質が変化したのか、教員か？）
- ・教員不足である中、子育てや介護をしながらでもできる自分を育てるトレーニングの方法、手段を知りたいです。大学教員のワークライフバランスについて疑問に思います。
- ・シミュレーション教育、ICT教育
- ・学生の学びの評価について
- ・教育者としての姿勢や態度について、経験豊かな先生から事例を交えて伺いたいです。
- ・大学経営、教育の質保証
- ・新任教員を対象に授業案の進め方、考え方や工夫等について知識を得る機会の場合もしくは研修
- ・教育方法、教育評価など基本的な内容をしていただけると助かります。
- ・看護教員の育成
- ・研究活動
- ・新任教員研修を継続的に行ってほしい
- ・学生への教育の参考になるようなこと
- ・教員に対する教育支援に関する内容
- ・学生の社会性獲得について
- ・ユニフィケーションの実践方法について
- ・個性に合わせた学生の指導方法

②今後の講演会の開催時期について

- ・ 土日 (2)
- ・ 1 月 (2)
- ・ 2 月 (3)
- ・ 3 月 (3)
- ・ 4 月 (1)
- ・ 5 月 (2)
- ・ 6 月 (2)
- ・ 7 月 (2)
- ・ 8 月 (9)
- ・ 9 月 (2)
- ・ 10 月 (1)
- ・ 11 月 (1)
- ・ 12 月 (1)
- ・ 夏 (1)
- ・ いつでも (3)

③今後の講演会の開催方法について

- ・ オンライン（ライブ配信とオンデマンド配信）(39)
- ・ 会場とオンラインのハイブリッド形式 (61)

④今後の講演会の開催場所について

- ・ 東京 (4)
- ・ 交通の便がよい関東圏 (1)
- ・ 大阪 (1)
- ・ 関西 (1)
- ・ 地方都市 (1)

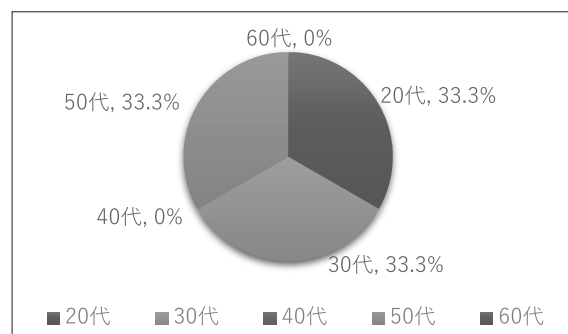
一般社団法人日本私立看護系大学協会 大学教育委員会
2024 年度 25 新任教員向け研修会「大学教育とは」 グループワークアンケート結果
参加者：16 名、アンケート回答者：9 名

開催日：2024 年 8 月 3 日（土）

1. 参加者について

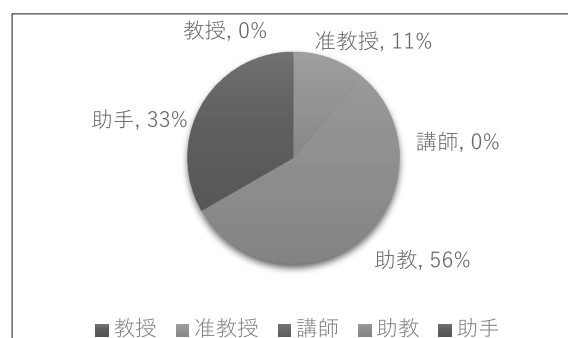
①年齢

	人数	割合
20 代	3 人	33.3%
30 代	3 人	33.3%
40 代	0 人	0%
50 代	3 人	33.3%
60 代	0 人	0%
合計	9 人	100%



②職位

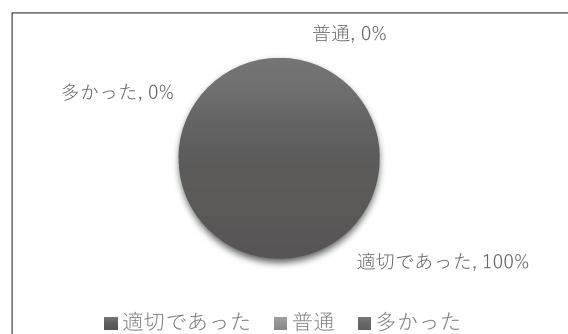
	人数	割合
教授	0 人	0%
准教授	1 人	11%
講師	0 人	0%
助教	5 人	56%
助手	3 人	33%
合計	9 人	100%



2. グループワークについて

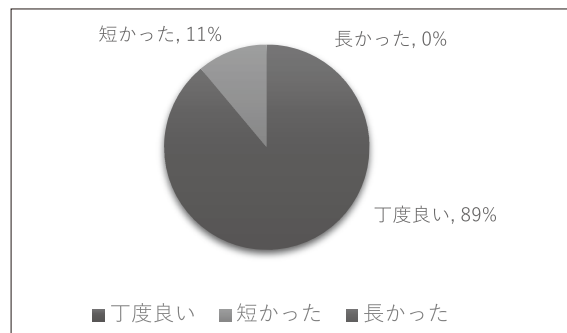
①グループの人数について

	人数	割合
適切であった	9 人	100%
普通	0 人	0%
多かった	0 人	0%
合計	9 人	100%



②グループワークの時間配分について

	人数	割合
丁度良い	8 人	89%
短かった	1 人	11%
長かった	0 人	0%
合計	9 人	100%



③グループワークに参加した理由について

- ・上席の方に勧められたため。
- ・他大学の先生方と話してみたかったため。
- ・他大学・様々なご専門の先生方と交流できる機会は貴重だと考えたため。
- ・普段周りは教員経験の長い人ばかりで、自分と同じような教員歴の人と話をしてみたいと思ったから。
- ・他大学の先生方からの意見や情報共有することで、教育や研究に活かしたいと考えました。
- ・他大学の教員との交流、情報交換機会の獲得のため。
- ・他大学の教員とディスカッションすることで学びを深めるため。
- ・他の大学の先生方のご意見や、日頃の思いなどを対面で聞いて自分に還元したいと思ったから。
- ・会場に参加するため、せっかくならと思い参加しました。

④グループワークの感想

- ・日頃のモヤモヤが共有いただけ、示唆が得られた。
- ・全体的に広く浅い話し合いになってしまった。もう少しグループ内でテーマ設定を行えばよかったと感じました。
- ・大学や、所在地域が異なっても、同じような悩みを抱えている点が新鮮な驚きでした。普段は学務に追われ、教育についてじっくりと話し合う時間を持つことが難しいですが、他大学の先生方と率直に話し合うことができ、自分がジレンマを感じている事柄を認識することが出来ました。本日気づいた問題意識に向き合い、さらに教育・研究能力を向上したいと思いました。
- ・同じようなことで悩んでいることが分かったり、このような機会がなければ繋がることのできなかった先生方と知り合うことができて、とても良かったです。他のグループの意見も聞き、今後の参考にできそうなことがたくさんあると感じました。
- ・とても素晴らしい先生方で、ディスカッションも多岐にわたる意見や学びを得ることが出来ました。
- ・同じ領域であっても異なる教育法を取り入れている実践の共有や学生対応にかかわる課題の共通を確認でき、有意義であった。
- ・自身の悩みを解決できたり、他の教員も同じように悩みを抱えていることを知り、不安の軽減につながった。このような横断的な学習を継続することで、私自身の評価を相対的にできるのではないかと考えた。学習者のための評価と指導者のための評価を分離して、大学教育の質を高められるようにしていきたい。
- ・まだまだ経験の浅い自分にも共感できる部分もあったり、一方で様々な考え方に触れることができて大変有意義な時間となりました。
- ・新任同士の悩みなどを話せて、有意義な時間でした。

3. 今後、取り上げてほしいテーマについて

- ・ FD について、新人の先生方がどのように能力開発に取り組まれているか具体的な状況を知りたいです。
- ・ society5.0、AI、XR を看護教育に取り入れる上での課題について
- ・ 研究活動推進に向けて活用できる知識

一般社団法人日本私立看護系大学協会 大学教育委員会
 研修会「看護系大学における特別な支援を必要とする学生への教育支援の実際」アンケート結果
 当日参加者：会場参加 14 名、Zoom 参加 80 名、動画視聴回数 746 回
 アンケート回答者：116 名

会場開催、Zoom を用いたライブ配信

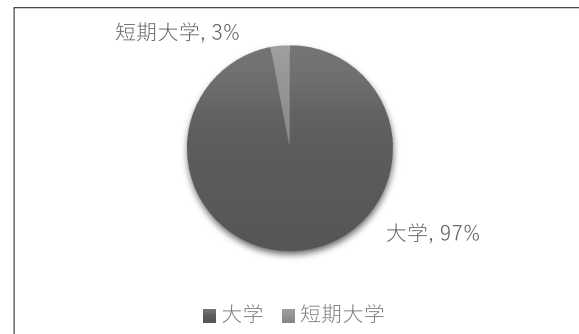
開催日：2025 年 1 月 25 日（土）

動画配信期間：2 月 4 日～5 月 4 日

1. 参加者について

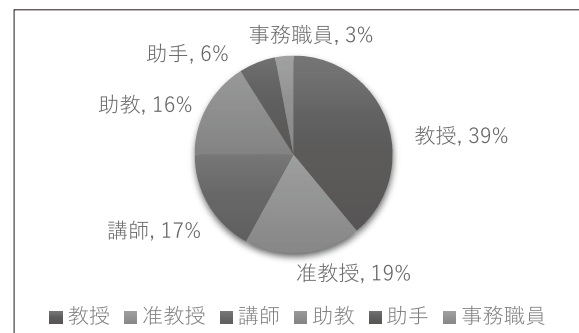
①所属

	人数	割合
大学	112 人	97%
短期大学	4 人	3%
合計	116 人	100%



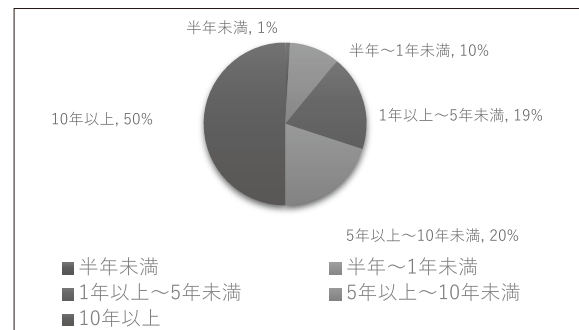
②職位

	人数	割合
教授	45 人	39%
准教授	22 人	19%
講師	20 人	17%
助教	19 人	16%
助手	7 人	6%
事務職員	3 人	3%
合計	116 人	100%



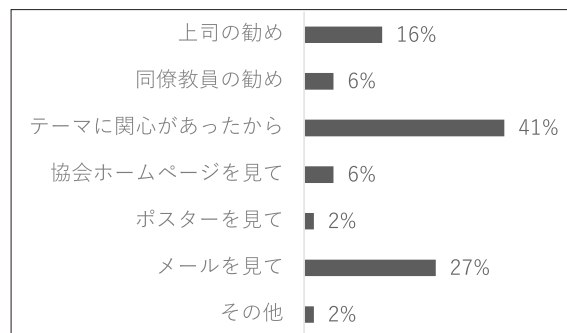
③在職期間

	人数	割合
半年未満	1 人	1%
半年～1 年未満	12 人	10%
1 年以上～5 年未満	22 人	19%
5 年以上～10 年未満	23 人	20%
10 年以上	58 人	50%
合計	116 人	100%



④参加のきっかけ（複数回答可）

	件数	割合
上司の勧め	26 件	16%
同僚教員の勧め	10 件	6%
テーマに関心があったから	68 件	41%
協会ホームページを見て	10 件	6%
ポスターを見て	3 件	2%
メールを見て	46 件	27%
その他	4 件	2%
合計	167 件	100%



（その他の内容）：実際に支援を必要とする学生を見ており対応方法について学びたかったため
 大学 FD 研修として
 特性のある学生のチューターであり、対応の仕方を学ぶため
 大学の研修会として

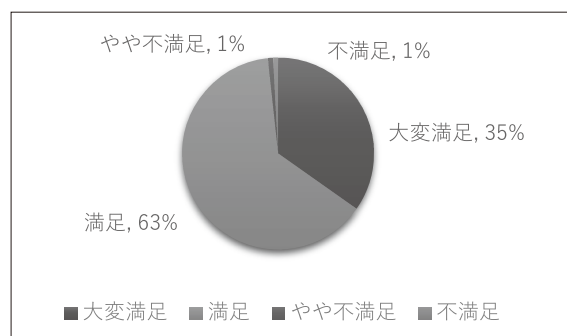
2. 講演について

「看護系大学における特別な支援を必要とする学生への教育支援の実践」

講師：西村 優紀美 氏（元富山大学 保健管理センター 准教授）

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	40 人	35%
満足	73 人	63%
やや満足	1 人	1%
不満足	1 人	1%
合計	115 人	100%



2) ご意見、感想など

- ・ 学生との対話、チームの整備と連携、この2つの重要性を再認識しました。
- ・ 自己理解をどのように促すのか、大変勉強になりました。フローチャートは、障害に関わらず全学生が取り組んでも価値があると思いました。
- ・ 組織作りは大切です。私立大学では法人の理解がなければできないことと痛感します。
- ・ 有意義な講演でした。私は看護管理者の時間が長かったので、このように支援を必要とする学生が看護師になったらどうなるのかという思いも強く持ちます。しかし、学生に自分を知ってもらって支援をするという形であれば、就職支援の方向性も変わるのかなと思いました。
- ・ 診断がついていないが、疑わしい場合に、本人・保護者と現状を示して、一度カウンセラーや専門外来などの受診を進めるが、受け入れられない場合が少なくなく、診断がない状態で、現状の問題を学生や保護者と話し合いながら進めることが少なくないです。
- ・ 特別な支援を要する学生への具体的な支援について多くの示唆を得ることができた。各教員の学生への理解と支援も重要であるが、各教員と連携を強化し学生を支援する組織づくりが重要であると理解した。
- ・ 前回の西村先生の講演を拝聴しましたので、今回はより理解しやすく感じました。本学はこの取り組みについて始まったばかりで十分とは言えず、日々教員の関わりに委ねられているところがありますが、一人で抱えず、情報共有をしながらすすめていきたいと思いました。今後の参考に

なる内容でした。

- ・合理的配慮と教育的配慮の相違点を理解することができ、具体例が教育実践での工夫に活用できる示唆に富んでいた。自分が学生支援や教育指導する際に着目する項目等、自分自身の教育スキルに関する引き出しが増えた感覚です。今後の実践に用いていきたいと思います。
- ・非常にわかりやすく、役立つ内容でした。講義の中で提示された資料を参考にさらに具体的に学んでいきたいと思います。
- ・看護系大学に在学する、特別な支援を必要とする学生の特性や支援のポイントを多く教えていただき、本当に役立つ内容だったと思います。特に実際の事例のお話はわかりやすく、すぐに実践できることも多かったと思います。今回の学びを教職員間で共有して理解を深め、学生の支援につなげていきたいと思います。
- ・2年前まで、現場で発達障害児と保護者支援をしていました。大学教員になり、大学生になってからの方が、困りや助けてほしいことを周りの大人へ伝えることが難しくなっているように感じます。先生のお話の中でも、困りや助けてと言えない学生がいるとお聞きし、学生が話をしやすいように、大学組織の一員として学生に向き合って対話していきたいと感じました。
- ・特別な支援を必要とする学生への教育支援の実際は、他の一般の学生への教育的配慮にも活用したいと思いました。
- ・直ぐに活用できる情報を厳選して、また、詳細を知りたい場合の資料のご提示など、今だけでなくこれからも情報を得られるようなご講演でした。冒頭で先生もおっしゃっていましたが、とても時間内にお話しただけでない程大切なことがたくさんあると感じました。数回に分けてご講演いただいたり、研修会を開催していただいたりすると良いと感じました。
- ・文部科学省の第3次まとめをしっかりと把握する必要があること、また具体例も聞くことができ、大変参考になりました。教員が指導上特別な配慮や支援の必要性、指導の困難さを感じていても、学生からの申し出がない場合やそもそも診断がついていない場合、学生自身が自分に発達上の特性があると感じていない場合に、どうするとよいのかよく悩みます。自分に任された臨地実習期間ではどうにもならず、丁寧な対応もできない、と難しさを感じることが多いです。本日の講演を参考にさせていただきます。
- ・大変貴重な示唆をいただきました。
- ・該当学生への支援をひとりで担うのではなく大学（組織）として取り組むことが必要とのことでした。本当にその通りであると思いますが、そのことへの働き掛けが非常に難しい現状もあり悩ましいです。また、教員間での情報共有の大切さについても納得ですが、学生の個人情報の共有化に反対の意見をもっている教員（領域）からの協力が得られなかったり、日々の他の業務の多忙さに追われ、丁寧な対応ができない現況もあります。時間と忍耐が必要であるため、科目担当の教員が片手間ではできない状況をどう改善していくかを早急に考えていかなければならないと痛感しました。そうでなければアンテナが高く、熱心な教員ほど教員自身が折れてしまうのではないかと感じました。
- ・困難だと捉えていたことが具体的になり、取り組む内容や順序が見えてきました。
- ・近年、本学部においても合理的配慮が必要な学生が増えている状況があります。特に臨地実習においてその対応に試行錯誤していることから、非常に参考になる内容でした。本学部においては、アドバイザー教員と実習担当教員の対応が主となっておりますが、組織的に対応を考えていく必要性を感じております。
- ・学生の特性に合わせた支援の具体をご提示いただき、大変参考になりました。組織作りが大切であることはわかりますがそのハードルは高い現状にあります。教員が一手に引き受けなければならない今の体制を少しでも変えていけるよう、声にしていきたいと思いました。
- ・近年、合理的配慮を必要とするような学生が急に増加している傾向があるため、教員は指導に自信が持てていない状況です。その中のひとつとして、該当学生への配慮の内容が周囲の他の学生

にどのように映るのか？ということがとても気になっていました。そのことについても、「コミュニケーション」が鍵になることがわかりましたので、実践できそうです。

- ・日々臨地での実習指導を行っています。学生のような反応に対応が難しく、どのような関わりが学生の学びを深めていくのかが自己の課題となっております。合理的配慮が必要な学生の特徴を知ることができたので、関わりが難しい学生の情報について周りの先生方と共有し、対応を考えていこうと思いました。
- ・行動分析学を少し学習しているので、ご講演いただいた内容に関しては、理解することができました。今後は、合理的支援が必要な学生が増えてくることが懸念されるので、大変勉強になりました。
- ・「どこまでが合理的配慮か」や「何が合理的配慮か」について、非常に納得が이었습니다。以前、他の教員が配慮と称して取っている行動を見て「真綿で首を絞めているよう」と感じたことがあります。教員が良かれと思って行っていることが、学生の学修や成長の機会を奪っているのではないかと感じていたからです。教育的配慮がただの「特別扱い（えこひいき）」に見えてしまうほどでした。教育の内容を「この学生はこれでいい」と決めてしまうのは間違っているのだと思いました。臨地実習では、合理的配慮がどの程度可能か、どこも苦労されているんだなと思い、明日から頑張ろうという気持ちにもなりました。
- ・発達特性を持つ学生だけでなく、精神的に不安定な学生の支援についても具体的に学べてよかった。
- ・具体的な関わりがわかり、今後に活用していきます。
- ・不勉強な状態での参加でしたが、基本的なことから最新の情報、イメージしやすい実践内容までご教授いただきたいへん勉強になりました。担任をしておりますので、来週から活用して参ります。これまでに対応した学生に本来はできた支援があり、悔やまれます。社会に出たあとのためにしっかりと力をつけてもらえるよう支援していきたいと思いました。
- ・今年度から精神障害の合理的配慮学生の対応をしており、実習の支援について検討するところでしたので、考え方など大変勉強になりました。
- ・もう少しゆっくり講義を聞きたかったです。
- ・さらに具体的な内容を知りたいので第2弾もお願いします。
- ・私学ということもあり、色々なタイプの学生がいます。時に、保護者の理解が特殊で「それを何とかするのが教員の仕事だ」とか、「障害者扱いされた」などと対応に困る事例もあります。学生自身でなく、保護者の対応に疲弊します。
- ・発達障害の診断を受けた学生を指導したことはないが、その特性を持つ学生は多くいるので、指導方法を工夫する参考になった。DCDについては全く知らなかったもので、技術の習得が困難な学生がいた場合、それを踏まえて指導したいと思う。
- ・大変だなというのが実際の感情。
- ・特別な支援を必要とする学生は特に、実習においてグループ間でトラブルになることが多いように感じています。学生が自らグループメンバー等に自分が支援を必要としていることについて伝えるのは難しいように思いました。
- ・発達障がいや精神障がいのある学生だけではなく、難病や遺伝性疾患など身体疾患がある学生も入学することが増えている。入退院を繰り返し就学困難な場合も学生・保護者から合理的配慮を強く求めてくることが多く、教員の過重負担となっている場合の対応についても教えていただきました。
- ・該当学生と他の学生への指導について、やはり困難だなと思いました。
- ・合理的配慮の基本的な考え方と看護学生ならではの配慮について知ることができ、参考になりました。
- ・実際に合理的配慮の学生を受け持った経験があったため、今回の研修に参加し、改めて振り返ることができました。経験から難しいと感じたことは、規模が小さな大学では、専門部署がなく教

員が全てを担う必要があり、業務負荷が大きくなったことでした。小規模組織における体制づくりについて、その実際を知りたいと思いました。

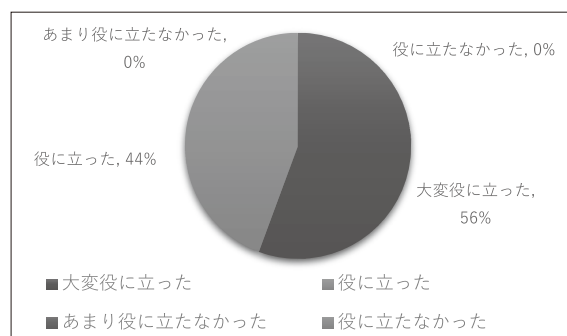
- ・大変有意義な内容でした。当該学生の気持ちや訴えの部分、教育上実習などへの合理的配慮をしてからの変化などにつきましては、もう少し時間をかけて聞きたかったです。
- ・今の時点では教員による温度差があると思われる。また、どのように対応すればいいのか分からないという意見もある、これから先、周知していく事でより学生が学びやすい環境を作って行きたい。同時に、合理的配慮を受けた学生が、良かったこと、改善点をフィードバックしていくシステムがあればよいと思う。配慮が一般的になれば、配慮して当然という態度をとる学生が出るのかなと思ったりする。お互い様、譲り合う精神で助け合えばいいと思う。
- ・まだまだ学習不足だなと思える内容であった。
- ・特別な支援を必要とする学生が増えてきたように感じていたため、とても興味深く聴講させていただきました。
- ・教員となり2年目になりましたが、様々な学生と関わる中で、より今回のお話と実際の場面が具体的に結びつき理解することができました。
- ・学生のニーズに合ったテーマだと思いました。
- ・事前に質問をもらってそれを検討していく企画も検討していただきたいです。今現在本当に困っています。
- ・ご講演の中で、合理的配慮申請にあたり、保護者から学生本人には言わないでという要望があった場合それに従い配慮をする、というお話があり驚きました。本人が知らないところでの配慮は「大学」という場で果たして適切なのか、疑問に感じました。また、グレーゾーンの学生が増えている印象で、教育的配慮の範囲が増していると感じています。
- ・対応に苦慮する場面があり、今後より具体的な対応が求められる分野だと思っております。
- ・教育的配慮に関しては、とても難しく感じております。今回の講演から、今後の対応に関して、具体的な示唆がありましたので、明日からの支援に役立てていきたいと思えます。
- ・わかりやすい講義で理解が良くできました。オンデマンド配信はありがたいです。その都度、停止していけばよいのかと思いますが、可能な範囲でスライド資料も配信頂けると、なおよかったかと思えます。
- ・具体的な事例を用い説明していただいたので、想像しやすく今後の教育に役立てられると感じました。資料を共有させて頂けたら、今後困ったときにも役立てられると思いましたので、講演の内容につきましては、満足を選択させて頂きました。
- ・対応方法に迷ったときには、学生の学ぶ機会を保障するという前提に戻り、そのためにどうしたらよいか考えることの重要性を学びました。また、教員個人や一部の教員だけではなく、組織的に対応することの重要性も学びました。質疑応答も、自身の所属大学にも起こりうる具体的な内容であったため、学生への対応について、勉強になりました。
- ・合理的配慮のポイント（学ぶ機会を保障すること）が理解できました。
- ・時間が短かったためか、将来的に人の命を預かる医療人を育てるという「看護系大学」の特性に特化した内容について、もう少し詳しくお聞きできたらよかったです。参考資料のご紹介も良かったです。引き続き、関心を持ちたいと思えます。
- ・現在の学生対応を振り返る機会になった。
- ・特別な支援とはいえ、実習を学内に変更することなく、必要な教育をどのように支援するとできるのかを考える事が必要であると理解できました。
- ・特性のある学生支援の考え方がよく理解できた。
- ・診断を受けている学生よりも、障害があるかもしれない学生に対して、臨地実習時の配慮について難しさを感じている。
- ・組織づくりの重要性を改めて認識した。

- ・ 具体的支援内容をもう少し知りたいと感じました。特に、「提出物の期限延長」等、数字で配慮が見えるものについては、どのあたりが妥当なのか基準のようなものを知れると、今後に生かせると考えました。
- ・ 教員が疑いを感じても「診断」につながる受診勧奨の発想はなかったことに気付きました。ただ、ボーダーラインの学生が多いのではと思います。
- ・ 実際に直面している課題であり、非常に興味深かった。
- ・ 「特別な支援を必要とする学生への教育支援」について、とても参考にさせて頂きたい内容ばかりでした。特に、「大学としての情報公開の重要性：支援を必要としている学生が申請しやすいように、あるいは他学生に対しても合理的配慮について理解してもらうために」「配慮が必要だが自覚がない学生（大学側として、忘れ物が多い、未提出課題が多いなどなど）に対する対話の必要性」について勉強になりました。
- ・ わかりやすい内容でした。実際の対応の基準が抑えられると考えました。
- ・ 限られた時間の中、貴重な情報をご提供いただきありがとうございます。さらに実践的な情報もオンデマンドでご提供いただけましたら助かります。また、ITを使った取り組みなども教えていただきたいです。

3. 研修会全体

1) 企画について

	人数	割合
大変役に立った	64 人	56%
役に立った	51 人	44%
あまり役に立たなかった	0 人	0%
役に立たなかった	0 人	0%
合計	161 人	100%



2) ご意見、感想など

- ・ フローチャートの作成等、具体的な支援方法がとても参考になりました。
- ・ 合理的配慮の事例集などがあれば、ご紹介頂きたい。
- ・ 教育活動を行う際のグループ機能を引き出す工夫事例等をさらに学びたいです。
- ・ この時期、入学試験等多様な仕事を抱えており、地方に住んでおりますと、なかなか東京等に出かけるのが難しい状況です。教員は、どの時期も忙しいので、難しいことかもしれませんが、開催時期をお考えいただくと嬉しいです。
- ・ 非常に良い企画だったと思います。参考になる書籍の紹介もしていただき、有難いです。
- ・ 合理的配慮に対してはまだまだ課題がたくさんあると思いますので、さらに深められる研修があれば幸いです。
- ・ 臨床の看護職の方から、特性のある学生が自分自身で適応できる力を大学のうちから学んでいると、就職した後の対応がとてもやりやすいので、大学教育頑張ってくださいとご意見をいただいた事がありました。その時から、大学でどのように学生と関わっていったらよいのだろうかと思案しておりましたが、そのお答えをいただけたような気がいたしました。私一人の力で組織を動かすことはできませんが、本日いただいたご講演の内容を参考に、担当している学生と向き合うことから始めていきたいと思いました。
- ・ 当事者（現役学生または卒業生など）が参加してディスカッションできるような企画ができると

いいのではないかと感じた。

- ・ 具体的な事例の提示を増やしていただきたいと思います。
- ・ 大枠をつかむことはできましたが、やはり午後の事例検討に参加させていただくと、より対応策などが具体的に理解できると思いました。
- ・ より実践的な構成で身につきました。
- ・ 教員は誰もが気になっているテーマで、今後も確実に増えていく教員の仕事です。本学はまだ組織的な取り組みができていないため、このような研修が大学を動かす機会になることを願っています。
- ・ 同じテーマで事例検討や各大学で行っている工夫を知りたい。
- ・ 助成金などについても詳しく教えてほしかったです。
- ・ 来年も同じようなテーマで研究会をして欲しい。
- ・ 今回のテーマについて、実際に支援をしてうまくいったお話や先進的な施設において、取り組みが充実するまでの経過なども知りたいと思いました。
- ・ 今回の企画は、私にとってタイムリーな内容でした。
- ・ 組織的取り組みが必要・・・という点を誰が理解されると、大学としての支援が進むのでしょうか。多様な学生が増え、学生支援の職員の雇用も検討する必要があると常々思います。
- ・ 仕事でライブ配信に参加できなかったため、オンデマンドにしていただけただのは、大変、ありがたいです。
- ・ 実践経験に基づく講演を聞いたのが参考になった。
- ・ 学生の教育指導は、年々困難感を増していると思うので、このようなテーマでの企画は、現状に合っている。
- ・ 役立つテーマでした。
- ・ 組織作りをどのようにはじめ可視化できるものにするのか経験されたことを教えていただきたい。
- ・ 業務上、出張は難しいので、このように Web 視聴ができると繰り返し視聴もできるので理解しやすいと思います。
- ・ 実践編、問題とその対応編のようなことに関する情報もご提供いただけないでしょうか。

4. 今後、本協会「大学教育委員会」で行う事業について

①希望するテーマ

- ・ 今回のように、多くの大学や教員が困難に感じている事項を取り上げていただけますと大変助かります。
- ・ 同様のテーマで、臨地実習などでの具体的な支援事例について
- ・ 発達障害のある学生支援やフローチャートの作成について
- ・ 教員の自己教育力向上に向けての組織的取り組みについて
- ・ 今回のテーマは、日頃何かしら配慮の必要となる学生が多くなっており、非常に重要なテーマと思います。今後も定期的に対処例などを多く入れて、お話しいただけると有難いです。
- ・ 臨地実習施設（実習指導者）との連携について：学生の看護実践の機会をどのように保障していくか、学生の看護実践能力をどのように評価していくか、学生の臨地実習での看護実践の経験が新人教育にどのように活用可能か等について関心があります。
- ・ 特性のある学生の支援について、研修プログラムが欲しいです。
- ・ SNS 等の情報発信などに関するリスクについて
- ・ このテーマを更に進化していただけるとありがたいです。
- ・ 看護教育モデル・コア・カリキュラムへの取り組みについて

- ・アカデミックハラスメントと教育的指導について
看護学校での指導について、時々マスコミを騒がせていますが、なんでもアカハラなのかと思うことがあります。レポートを提出しないことを咎めること、勉強をしないからテストで点数が取れず不合格になること、対象者への言葉遣いや態度が不遜なため注意することは必要な指導だと思うからです。以前開催されていたかもしれませんが、何年かに一度、振り返りや最新の動向を入れてお聴きしたいです。
- ・合理的配慮学生の対応について
- ・講演はもちろんのこと、グループワークなども ZOOM 等で参加できるとよいと感じました。
- ・効果的な FD 活動について
- ・大学での人材育成をどうしていくか。若手教員の教育が領域に任されているが、大学としてどう取り組んでいくことが効果的なのか。
- ・希死念慮のある学生への対応、心の問題を抱えた学生の対応
- ・ハラスメントの予防
- ・実習での合理的配慮（特に精神疾患）への支援の例について
- ・「母性看護学実習のあり方」
出生率の低下から、臨床での経験ができない状況になってきました。保助看法の看護師の定義には「じょく婦に対する療養上の世話」とありますので、今後どのようにしていけばよいのかと思案している毎日です。
- ・経済的支援が必要な学生への組織としての取り組み
- ・DV 被害にある学生への効果的（広域的な）取り組み支援の実際
- ・同テーマで、安酸先生のお話をお聴きしたいです。
- ・低学年でリタイアする学生へのフォローアップ
- ・今回と同様のテーマを希望します。
- ・保護者等のクレーム対応に関して
- ・対面での参加が難しいので、日時に余裕があるオンデマンドだとありがたいと思います。

②開催時期

- ・1月（10）
- ・2月（5）
- ・3月（10）
- ・4月（3）
- ・5月（3）
- ・6月（3）
- ・7月（1）
- ・8月（3）
- ・9月（4）
- ・休日（2）
- ・夏休み（2）
- ・春休み（2）
- ・オンデマンド配信であればいつでも（3）
- ・いつでもよい（2）

③開催方法

- ・オンライン（ライブ配信とオンデマンド配信）（58）
- ・会場とオンラインのハイブリッド形式（41）

- ・会場開催（3）

④開催場所

- ・東京（3）
- ・大阪（1）
- ・たくさんの方が参加できる場所（1）

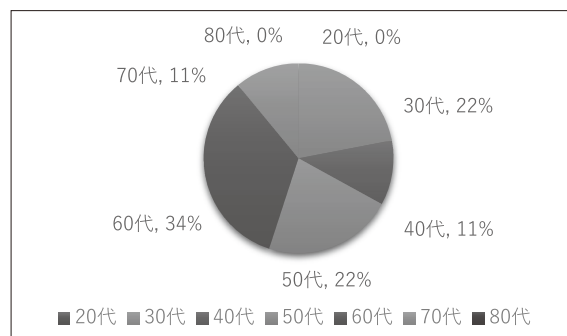
一般社団法人日本私立看護系大学協会 大学教育委員会
 研修会「看護系大学における特別な支援を必要とする学生への教育支援の実際」
 事例検討会アンケート結果
 事例検討会参加者：15名、アンケート回答者：9名

開催日：2025年1月25日（土）

I. 参加者について

1. 年齢

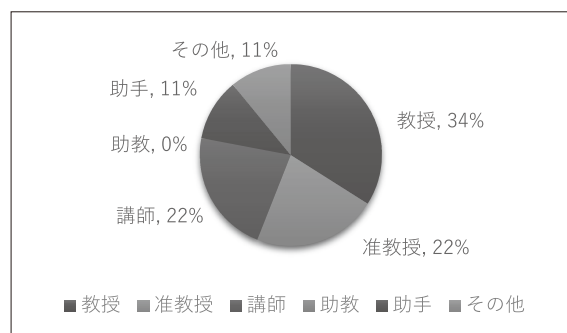
	人数	割合
20代	0人	0%
30代	2人	22%
40代	1人	11%
50代	2人	22%
60代	3人	34%
70代	1人	11%
80代	0人	0%
合計	9人	100%



2. 職位

	人数	割合
教授	3人	34%
准教授	2人	22%
講師	2人	22%
助教	0人	0%
助手	1人	11%
その他	1人	11%
合計	9人	100%

（その他の内容）
職員



II. 事例検討会について

1. グループの人数について

	人数	割合
適切であった	9人	100%
普通	0人	0%
多かった	0人	0%
合計	9人	100%

2. 時間配分について

	人数	割合
丁度良い	8 人	89%
短かった	0 人	0%
長かった	1 人	11%
合計	9 人	100%

3. 事例検討会に参加した理由について

- ・発達障害、精神障害の学生の対応について、他大学ではどのような考えでどのように対応しているか伺いたかったため。
- ・特に 1, 2 年生のアドバイザーとしての役割や関わりに困難があり、参加される皆様のお話を聞きたかったから。
- ・他大学の支援状況、体制を教えていただきたかったため。
- ・今困っている内容であったため。
- ・自校の対応の具体的な示唆を得るため。
- ・学内組織「障害学生支援担当会議」の勧めにより参加した。
- ・午前中の講演だけでなく、グループワークで他大学の教職員の声や意見を聞きたいと思ったから。
- ・教員経験が浅いこと、担任をしている学生の対応を検討するため、関心のあるテーマだったから。
- ・学力や IQ が低いと思われる学生へどのような支援が必要か知りたかったため。また、支援そのものが必要か知りたかったため。

4. 事例検討会の感想

- ・合理的配慮について他大学の考えや対応について、実際の事例を踏まえて意見交換をすることができたので、大変勉強になりました。
- ・大学ごとで組織も違い、待ったなしの状況では、まず、新たなものを作らなくても、如何に連帯していくかが鍵ではないかと思った。その原動力は、学生と教員の互いに知り合う、信用する関係であり、学生も教員も合意形成できる環境が必要だと感じました。
- ・各大学の取り組みや組織体制を知ることができ、所属大学の体制づくりに大変参考になりました。学生への個別支援についても、社会に出るための準備として必要な力を引き出す支援の大切さを改めて知ることができ、支援への熱意を新たにしました。燃え尽きないように個別支援に合わせて体制づくりに取り組みます。
- ・身近な事例だったので、とても勉強になりました。
- ・グループの先生方のご意見を聞きながら、様々な視点（学校保健的、社会学的）を学べた。
- ・私よりも経験豊富な方々とチームを組めたことにより、大変勉強になった。事例提供者から、詳しい背景の説明があったこともよかった。
- ・自由に意見交換できる時間があり、他大学の様子などを聴けて、同じような悩みを抱えていることが分かりました。また、ファシリテーターの先生のご意見を伺うことができ、学生への対応について理解が深まりました。今回、各組織での事務部門や教員の体制を聴くことができ、自部署を振り返るきっかけになりました。自部署の取り組みで、これでよかったと思える部分もある一方で、今回の研修を参考にして、今後検討しなければいけない内容にも気づけました（組織的な関わりの図式化など）。3月に行われる学科のFDで取り上げる予定であり、今回のグループワークでの意見交換を踏まえ、自部署に還元したいと考えております。

- ・講義はもとより、事例検討でも多くの体験や対策を学ぶことができました。
- ・特別な配慮が必要な場合や、それに繋げてからどのようにしていくかイメージできました。

Ⅲ. 今後、取り上げてほしいテーマについて

- ・合理的配慮の事例検討会
- ・合理的配慮時の教員教育のあり方について
- ・障害学生のフローチャート作成について
- ・有効な学生支援組織のあり方、学内での理解増進の方法について
- ・実習評価について（教員間の評価の調整、同じ科目で時期が異なる領域実習の評価）

2. 研究活動委員会

1. 趣旨

- ①教員による研究費獲得の向上、学術研究の推進に関わる活動
- ②研究助成と研究ネットワークづくり
- ③研究に関するセミナー、研修会等の実施

2. 担当理事および委員（○：委員長）

- 亀井 智子（聖路加国際大学）
- 小松 万喜子（中部大学）
- 前川 幸子（甲南女子大学）

3. 2024 年度事業活動報告

1) 研究助成事業

2024 年度の看護学研究奨励賞、若手研究者研究助成、国際学会発表助成の募集を 4 月 1 日～5 月 20 日に行い、7 月 14 日に選考委員会で選考した結果を第 2 回定例理事会（7 月 27 日）に提出した。看護学研究奨励賞 20 件、若手研究者研究助成 13 件、国際学会発表助成 7 件を採択することを決定し、8 月から助成金の交付を行った。

(1) 2024 年度研究助成事業選考委員会の開催

日時：2024 年 7 月 14 日（日）10：00～12：00

開催方法：Zoom を用いた Web 会議

出席者：（理事）麻原きよみ、香春知永、中新美保子、野末聖香

（選考委員）大坂和可子、杵淵恵美子、小高恵実、小藪智子、近藤麻理、泊祐子、長松康子、羽入千悦子、増澤祐子、松岡千代、三次真理、光永憲香

2024 年度研究助成事業選考結果

①看護学研究奨励賞

22 件の応募があり、審査の結果以下の 20 件を採択した。

※採択時の所属です。

氏 名	所 属	論 文 名
浅海 くるみ	東京工科大学	When should Home-visit nurses initiate end-of-life discussions for patients with Organ failure and family caregivers ? A qualitative study
石井 佳代子	和洋女子大学	Mixed-methods research of motivational processes in workers' adoption of healthy behavior.
稲岡 希実子	国際医療福祉大学	Effects of a Comic Booklet Intervention Aimed at Preventing Second-Hand Smoke Exposure for Pregnant Women in Indonesia : A Randomised Controlled Trial
岩井 美世子	一宮研伸大学	The process of reacquiring new vocalization in total laryngectomy patients with head and neck cancer : A qualitative study
大植 崇	兵庫大学	Development and Validation of a Knowledge Checklist of Cognitive Therapy for Nurses (KCCTN)
加藤 裕規	藍野大学	Experiences of dialogue in advance care planning educational programs
古藤 雄大	関西医科大学	Supporters' experiences of sensory characteristics of children with profound intellectual and multiple disabilities in afterschool daycare centres : A qualitative study
Zhou Lu	秀明大学	Association among cognitive function, daytime activities, and nighttime sleep in older adults in a long-term care facility
高橋 美宝	武庫川女子大学	Construction of an Explanatory Model for Quality of Life in Outpatients with Ulcerative Colitis
高畑 香織	湘南鎌倉医療大学	A breast milk production model for achieving exclusive breastfeeding in low-risk primiparas who had vaginal births at 4 months postpartum : A prospective cohort study
田中 美加	北里大学	Perspectives of Japanese elders and their healthcare providers on use of wearable technology to monitor their health at home : A qualitative exploration
土井 智子	名古屋学芸大学	Relationship between Sleep Quality and Constipation Severity in Patients with Parkinson Disease : A Cross-Sectional Study
徳永 友里	杏林大学	Lifestyle behaviors that reduce food and fat intake in patients with type 2 diabetes within 3 months of diagnosis lead to a reduction in the HbA1c level after 12 months
原口 昌宏	東京医療保健大学	Relationship between mental health and stressors among fathers of children with chronic illnesses and cognitive structure of fathers' stress experiences
房間 美恵	関西国際大学	Challenges faced by nurses engaged in rheumatology care in Japan
藤井 かし子	東京家政大学	Foot Problems and Their Associations with Toe Grip Strength and Walking Speed in Community-Dwelling Older Individuals Using Day Services : A Cross-Sectional Study
堀田 宗一郎	東京医科大学	Night-time detection and response in relation to deteriorating inpatients : A scoping review
本田 歩美	聖マリア学院大学	Impact of visitation restrictions on the mental health of family caregivers during the COVID-19 pandemic : A mixed methods study

牧野 晃子	聖路加国際大学	Experiences and care needs of post-discharge patients who underwent cardiac surgery : A qualitative study
森 瞳子	四條畷学園大学	Autism symptoms, functional impairments, and gaze fixation measured using an eye-tracker in 6-year-old children

②若手研究者研究助成

23 件の応募があり、審査の結果以下の 13 件を採択した。

※採択時の所属です。

氏 名	所 属	研究テーマ
阿部 宏史	藍野大学	独居高齢者の生きがいとその関連要因についての研究
岩瀬 敬佑	藤田医科大学	男性及び LGBTQ の人が助産師になることに対する意識調査
河村 諒	名古屋女子大学	「まちの減災ナース指導者」による豪雨・洪水災害時の避難所活動モデルの構築
久保 貴弘	武蔵野大学	認知的情報処理を活用した看護診断支援の学習法の提案
佐久間 美里	一宮研伸大学	通所介護職員のアパシーへの認識およびケアの実態
園田 希	関西医科大学	日本版「包括的中絶ケアの指針」作成を目指した WHO ガイドラインに基づく中絶後ケアの実態調査
田崎 裕子	長岡崇徳大学	祖父母世代を中心とした近隣住民が行う子育て支援活動が養育者へ与える影響
谷本 真唯	北海道医療大学	NICU に入院した子どもの父親が抱く時期別の看護支援ニーズをアセスメントするための指標の開発
橋本 直弥	北海道科学大学	パートナーシップ・ナーシング・システム導入の影響に関する研究
春名 美恵	日本医療大学	ICU 看護師におけるワークエンゲイジメント向上の支援に関する基礎研究
福士 泰世	帝京大学	放射線治療を受けた前立腺がん患者における尿路急性有害事象の経時的変化および有害事象の程度に影響を与える要因の解析
松井 芽衣子	大阪成蹊大学	精神障がい者ピアサポーターが入院者訪問支援事業に参加する体験
山本 真実	聖路加国際大学	院内助産施設における人員配置基準策定に向けた実態調査

③国際学会発表助成

13 件の応募があり、審査の結果以下の 7 件を採択した。

※採択時の所属です。

氏 名	所 属	論 文 名
朝居 朋子	藤田医科大学	Creating Ethical Dilemma Teaching Material on Organ Transplants for Junior and High School Education
鵜野 安希子	常葉大学	Effect of prevention measures of COVID-19 on influenza and norovirus in childcare facilities of Japan.
柏崎 郁子	東京女子医科大学	Demonstration Experiment for Implementation of Mobile Treatment Unit and Remote Medical Support Utilizing 5G : Focus on the Role of Nurses
勝本 祥子	東京医療保健大学	Characteristics of Pain in Lower Extremities and Associated Factors in Young Adult Osteosarcoma Survivors
田川 史穂里	日本医療大学	Characteristics of Career Vision and Career Development Support for Mid-Career Nurses : From the Perspective of Determinants of Sub-Concepts of occupational career maturity

藤井 美穂子	帝京科学大学	双子を出産した女性のニーズ：生殖補助医療と流産経験の影響に焦点をあてて
緑川 綾	東邦大学	Effects of mindfulness-based cognitive therapy on personal recovery in psychiatric day treatment with return to work in Japan : a non-randomized controlled trial with a control group.

2020 年度から 2024 年度の応募者数と受賞者数

年 度	看護学研究奨励賞		若手研究者研究助成		国際学会発表助成	
	応募者数	受賞者数	応募者数	受賞者数	応募者数	受賞者数
2020 年度	11	7	22	10	5	5
2021 年度	17	11	20	9	4	3
2022 年度	19	13	12	10	1	1
2023 年度	19	11	18	10	14	5
2024 年度	22	20	23	13	13	7
合 計	88	62	95	52	37	21

(2) 若手研究者研究助成成果報告

2024 年度若手研究者研究助成採択者（13 名）による研究成果報告を行った。

公開期間：2024 年 9 月 7 日（土）～ 9 月 9 日（月）の 3 日間

公開方法：Web 掲載による

公開内容：15 分程度の音声付きパワーポイント、抄録

視聴回数：524 回

※採択時の所属です。

氏 名	所 属	研究テーマ
石井 優香	東京情報大学	認知症ケアにおける看護師の患者への共感のあり方に関する研究
河畑 匡法	川崎医療短期大学	コロナ禍での臨地実習における短期大学生の自己調整学習および社会的スキルと実習適応感との関係
笹野 奈菜	大阪医科薬科大学	非医療系学生に向けたプレコンセプションケアに基づく避妊の性教育デジタルコンテンツの開発
宍戸 恵理	聖路加国際大学	唾液オキシトシン検出用小型センサの妥当性の検証：生化学分析との相関
杉浦 将人	藤田医科大学	新生児集中治療室（NICU）に従事する医療者の認識する音環境の様相
高橋 育子	仙台赤門短期大学	看護職と養育者が共用活用できる乳児のスキンケア支援ツールの開発
原 加奈	秀明大学	学齢期を迎えた超低出生体重児の親の思いと子育てにおける困難

2) 学術研究および学術研究体制に関する事業

研究セミナー

日時：2024 年 9 月 7 日（土）13：00～15：10

開催方法：Zoom ウェビナーによるライブ配信とオンデマンド配信

テーマ：「EBN リサーチエビデンスをどう実践に活かすか」

目的：看護のベストプラクティスを目指し、研究で明らかにされたエビデンスを実践にどのように活用するか、具体的な方法やアプローチについて学ぶ。

講師：片岡 弥恵子 氏（聖路加国際大学大学院）

プログラム：

13：00～13：10 開会挨拶

13：10～14：40 講演

14：40～15：00 質疑応答

15：00～15：10 閉会挨拶

当日参加者：60 名

動画配信期間：2024 年 9 月 11 日～12 月 11 日

動画視聴回数：307 回



セミナー参加者からの評価

アンケート回答者は 59 人（回答率 96.7%）であった。回答者の所属は大学がほとんどで、職位は教授 44% が最も多かったが、准教授・講師・助教といった若手教員の参加もそれに並んでおり、大学院生からの回答も得られた。

セミナー参加動機は、「テーマに関心があった」34% が最も多かった。参加者の満足度は「大変満足」76%、「満足」24% と全ての回答者が満足と回答していた。自由記載からは、内容、運営方法に関するものが多く、いずれの評価も高かった。特に「内容がわかりやすかった」「講師の説明が明確であった」というものが多く、「今後具体的に EBN を活用したり、教育に活かしたい」という記載もあり、参加者にとって有意義なセミナーであった。

3) 委員会の開催

第 1 回研究活動委員会

日時：2025 年 1 月 30 日（木）18：00～19：30

開催方法：Zoom を用いた Web 会議

出席者：亀井 智子、小松 万喜子、前川 幸子

議題：

- 1) 研究セミナーの振り返り
- 2) 2024 年度事業活動報告について
- 3) 2025 年度事業活動計画案について
- 4) 今後のスケジュールについて
- 5) その他

4. 今後の課題

- ① 会員校における看護学研究者の育成のために適正で公正な研究助成事業を推進する。
- ② 会員校の教職員のニーズに沿ったセミナーの開催について検討し、研究セミナーを開催する。

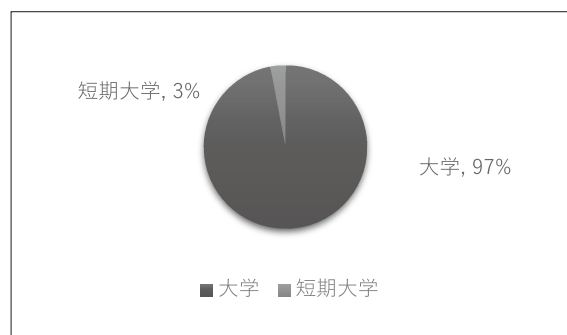
一般社団法人日本私立看護系大学協会 研究活動委員会
 2024 年度研究セミナー「EBN リサーチエビデンスをどう実践に活かすか」アンケート結果
 当日参加者：60 名、動画視聴回数：307 回
 アンケート回答者：59 名

Zoom を用いたライブ配信
 開催日：2024 年 9 月 7 日（土）
 動画配信期間：9 月 11 日～12 月 11 日

1. 参加者について

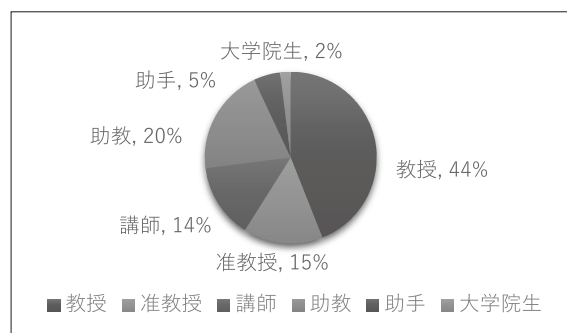
①所属

	人数	割合
大学	57 人	97%
短期大学	2 人	3%
合計	59 人	100%



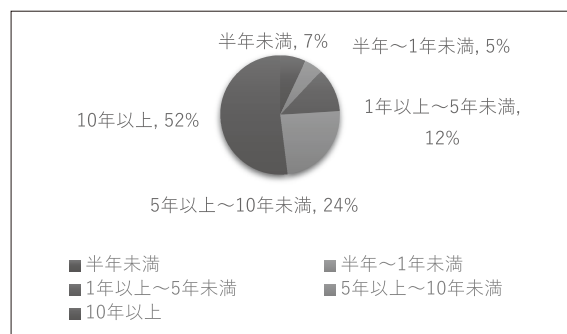
②職位

	人数	割合
教授	26 人	44%
准教授	9 人	15%
講師	8 人	14%
助教	12 人	20%
助手	3 人	5%
大学院生	1 人	2%
合計	59 人	100%



③在職期間

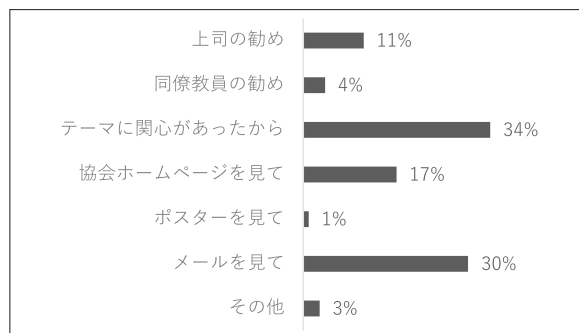
	人数	割合
半年未満	4 人	7%
半年～1 年未満	3 人	5%
1 年以上～5 年未満	7 人	12%
5 年以上～10 年未満	14 人	24%
10 年以上	31 人	52%
合計	59 人	100%



④参加のきっかけ（複数回答可）

	人数	割合
上司の勧め	9 人	11%
同僚教員の勧め	3 人	4%
テーマに関心があったから	27 人	34%
協会ホームページを見て	13 人	17%
ポスターを見て	1 人	1%
メールを見て	24 人	30%
その他（FD 研修）	2 人	3%
合計	79 人	100%

（その他の内容）
大学の勧め、FD 活動の一環として



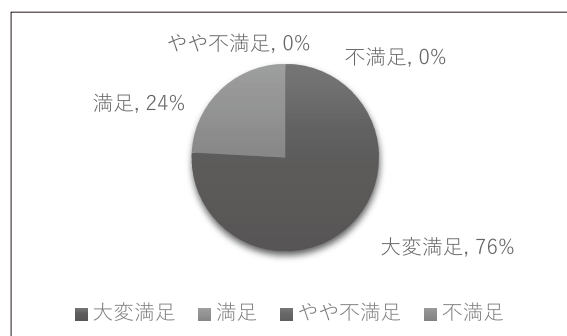
2. 講演について

「EBN リサーチエビデンスをどう実践に活かすか」

講師：片岡 弥恵子 氏（聖路加国際大学大学院 教授）

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	44 人	76%
満足	14 人	24%
やや満足	0 人	0%
不満足	0 人	0%
合計	58 人	100%



2) ご意見、感想など

- ・ トップクラスの教員の話聞ける機会をいただけることに本当に感謝いたします。現場の人に研究成果を還元したく、実践と研究を繋げることに悩みを感じていましたが、片岡先生の話が非常に役に立ちます。
- ・ 知識としてもっている内容もあったが、改めて疑問を持つことの重要性を認識することができた。
- ・ 貴重な話を有難うございました。
- ・ 大変参考になりました。
- ・ 大変わかりやすかったですが、実装に関するお話も聞きたかったです。
- ・ 学生の教育に活かせる事例を紹介いただきながらの講義だったので、すぐ活用できそうだと思います。
- ・ 文献検索もクリティークも苦手です。吟味を丁寧にする必要があると思いました。
- ・ 大変わかりやすい内容でした。もっと早く片岡先生の講義を受けたかったと思いました。今後の学部教育で活用させていただきます。
- ・ 具体的かつ大変わかりやすいご講演でした。
- ・ 非常にわかりやすく説明していただいたので、疑問や研究成果をどのように現場で実践に活かすかというプロセスが理解できた。
- ・ 学生が実習の看護計画の中で、「エビデンスがあるかどうか調べてもわかりませんでした。」とい

うことがありました。そんな時に、調べる方法などをわかりやすく説明する必要があると思いました。実習中は難しいので、実習前に身につけることが大切だと思いました。

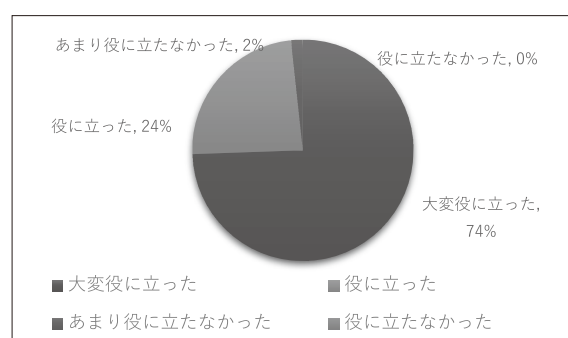
- ・ PICO を用いた文献検討を実際に助産学領域の大学院生の研究演習で活用しております。具体的な手順も教えていただいたので、今後は臨床実践で活かしていけるかという視点でも演習に入れていけるとよいと考えました。また、学部生にも研究講義演習などで入れていけると考えました。
- ・ 私自身の研究テーマが「EBN における情報リテラシーをどう育成するか」であり、大変興味深く視聴いたしました。片岡先生の説明はとてもわかりやすく、私が学生に指導する上でとても参考になりました。最後に話題にも上がっていましたが、「文献を探す」についての教育は進んできていますが、「文献を読み解く」「文献を実践に活かす」はこれからだと感じています。今回の研修について、看護師の文献検索の一連の能力育成と情報リテラシー育成に向けた研究に活かしていきたいと思います。
- ・ 目の前の現象から自ら疑問を持って調べて、その時々で最善の看護を提供するという看護実践は、看護教育で目指す学生像そのものであり、主体的に疑問を持つにはどのような問いかけが必要になるのかを、先生の講義を拝聴しながら考えていました。良質な疑問を持つ、良質な問いを立てるには教員はどのようなタイミングで、どのように関われば、学生の知的好奇心を刺激するのか、今後の課題にしていきたいと思います。
- ・ 先生の講義内容から学部生や大学院生の教育、臨床現場での研究支援など多くの場で参考になる内容で、とてもわかりやすく説明してくださり、今後自分が伝える際の参考になりました。自分が研究者として理解していることと、教育も含めて実践に活かすことや他者に伝えられることは違うと改めて感じ、本日の講義内容が勉強になりました。
- ・ 自身が EBN の学びを深めることと合わせて、どのように学生に EBN について伝えたらよいか分かって非常に勉強になりました。早速実践していきたいと思います。
- ・ 非常に実践的でわかりやすかった。
- ・ どう教育に EBN を取り入れるか、カリキュラムとして大きな枠組みで計画するだけでなく、自身の授業の一コマなどにも、例えそれが小さな要素であっても、組み込んでいけるかが非常に大切ではないかと感じました。日頃の教育において何においても、疑問は出発点だと感じています。疑問に気づく感性などは、どのような対照群であるならどのようなターニングポイントで伸びるのか、きっかけは何なのか？など、疑問に感じるところが常々ありましたので、PICO で調べてみたいと思います。とても有意義な時間を過ごせました。
- ・ 実装研究として、自分自身の研究の基盤になると感じました。また、学生との関わりにおいても、看護の考え方を発問する視点に活かしていこうと思います。
- ・ 文献も読めて実技もエビデンスを持って理解でき、実習中の教育効果は増大すると思うので取り入れたい。
- ・ EBN の意義や必要な論文検索の方法など、改めて学び直すことができました。大変勉強になりました。
- ・ 教材の紹介と論文の批判的吟味のプロセスについて非常に丁寧にご説明頂きました。
- ・ 具体的で学部学生のうちからも実習指導に活用することができるので意義深い講演であった。具体例・展開を含め解り易くよく理解できました。
- ・ 現在、当学の学生の看護研究の指導をしており、先生のご講演内容がとてもわかりやすく、大変勉強になりました。
- ・ 授業の組み立て方など、とても理解しやすかったです。
- ・ ゼミの中で学生と話している内容にエビデンスを追加しながら講義資料を作成されていたように思います。また、臨床現場においても看護師同士の話し合いから研究発表までのプロセスがわかりやすく説明されており、本当は高度な内容ですが、どの立場の方であっても理解できる内容だと思います。
- ・ 現場から離れた所で、まず看護に疑問を持つことをしていきたい。
- ・ とても具体的でわかりやすく、興味深く拝聴させていただきました。

- ・実習指導の場面での具体的な指導について、取り入れてみたいと思います。
- ・本日の内容は研究指導においても役立つ内容で、大変興味深かったです。
- ・学部生から臨床の看護師までを共通対象にして、わかりやすく説明して下さいました。
- ・とても分かりやすい内容でした。
- ・とても分かりやすい講義でした。ステップごとにまとめを提示してくださったので重要なところが再確認できました。
- ・先生が学生にどのように講義し学生が学んでいるのかをお示しいただいたことで、学部教育、大学院教育への多くの示唆を頂きました。
- ・とても分かりやすく、今後の研究活動や学生指導に活かしていける内容だと思いました。
- ・私は、大学の教員として未熟なのですが、講演は大変分かりやすく、今後の研究に役立つことばかりでした。教授方法も考えることができ、大変役に立ちました。

3. 研修会全体

1) 企画について

	人数	割合
大変役に立った	44 人	74%
役に立った	14 人	24%
あまり役に立たなかった	1 人	2%
役に立たなかった	0 人	0%
合計	59 人	100%



2) ご意見、感想など

- ・若手でも教育ばかりに力を入れて研究をしていない教員もありますが、研究力を身につけるために大変重要な企画だと思います。
 - ・講師の先生の説明が大変わかりやすかった。資料も事前にいただいたのがよかった。
 - ・大変興味深い企画をありがとうございました。
 - ・臨床現場での実装をイメージしていましたが、教育や研究指導にも役立つ内容でした。
 - ・講義や実習、学内の委員会業務など忙しい毎日の中で研修を受けること自身が学ぶことに対して思っていた以上にエネルギーを使うと感じています。
- EBN は知っていてあたりまえ…と思われるように、自己研鑽はあたりまえ…なのかもしれませんが自分の努力が学生のためになると思ってこれからも研修に参加したいと思います。
- ・学生への教授方法がわかりやすかった。
 - ・現場で 20 年ほど働き、教員としてはまだ数年の段階の自分ですが、自分自身の教育・授業体験と比較しながら拝聴させていただきました。教育は本当に奥が深い、と面白さを感じられる企画だと思いました。
 - ・エビデンスの追求は実践する臨床現場から発起されることが望まれる。現場では安全安心を優先するため、変化を嫌う現状を否定できない。また、職種間の理解を必要とする場合があり、課題は尽きない。しかし、他職種を含めたエビデンスの追求は大きな成果につながる。それをコーディネートするのは誰か、チーム医療の中では看護師の役割が大きいのではないかと考えられ、さらに大学などの教育機関との連携協働が理解と協力に繋がり、臨床の看護師の教育的支援となる。
 - ・「大学で看護を学ぶということとは何か」という自分自身の問への答えをもらえた貴重な研修になりました。根拠を考えること、伝えること、使うこと…先生からいただいた研修メッセージに大きな刺激を受けました。目の前の学生たちへ、そして社会に還元できるように、研究を研究で終わらせないことを目指したいと感じました。エビデンスギャップという言葉には、実習指導時に

教員として感じるが多かったので、施設との実装研究は、今後必要なことだと実感していることです。その際のキーワードをいただいた気持ちです。

- ・大変意義深いテーマと思います。
- ・施設や地域により臨地の看護実践の状況が異なりますが、共に EBN に基づいた看護を探究する姿勢を共有する意味でも、刺激的な企画であると思いました。特に講師が豊かな教育実践例を提供いただくことで、学生・院生を巻き込んで現場（臨床）と共に学ぶ機会になると思います。但し、1 人だけで進めることにはエネルギーを必要としますので、講演をもとにした「取り組んでみました！」などの第 2 弾交流会などあると楽しいと思いました。
- ・よい企画だと思いました。PICO は、健康教育のテーマ決めで使っています。どう伝えていくか、教授方法も参考になりました。
- ・今回のように研究の基礎的な内容だと、自己の復習にもなり、また学部学生に教授することも想像しながら講演を聞けるため、大変ありがたいです。他の研究デザインについての EBN リサーチエビデンスも是非聞きたかったです。

4. 今後、本協会「研究活動委員会」で行う事業について

①希望するテーマ

- ・研究方法や研究倫理に関する最近の動向など
- ・国家試験対策
- ・初学者への研究疑問や研究デザインの教育方法など
- ・看護学教育に求められる情報リテラシー
- ・文献の整理・活用方法・工夫
- ・看護学生のメタ認知力の育成やその影響因子など
- ・看護政策と教育について
- ・質的研究の方法論、QOL・PRO 研究の基本
- ・会員校の所在地は様々です。地区毎の悩みも異なると思います。「地域性を活かした活動」を後押しするテーマを希望します。
- ・領域別の企画があったらいいと思います。
- ・看護プログラムを創り出すことや、創り出した看護プログラムを社会実装することなどをテーマにしていただけましたことを希望します。
- ・研究の基礎的な内容

②開催時期

- ・2 月（2）
- ・3 月（2）
- ・4 月（1）
- ・9 月（6）
- ・10 月（1）
- ・夏休み期間（1）

③開催方法

- ・オンライン（ライブ配信とオンデマンド配信）（46）
- ・会場とオンラインのハイブリッド形式（9）

④開催地

- ・東京（1）

3. 国際交流委員会

1. 趣旨

- ①看護における教育、学術及び文化の国際交流を通して、将来国際的に関連機関との連携協力及び援助に繋がるための方策の調査研究
- ②看護界の動静と看護学教育の国際交流の現状と将来についての講演会等の実施

2. 担当理事および委員（○：委員長）

○櫻井 しのぶ（順天堂大学）

池松 裕子（日本赤十字九州国際看護大学）
（委員）

中村 敦子（日本赤十字広島看護大学）

若林 律子（順天堂大学）

3. 2024 年度事業活動報告

（1）研修会の開催

テーマ：これからの国際交流—グローバルな看護人材の育成の現状と展望—

目的：カリキュラムの過密さや渡航費用の高騰、国際情勢の不安定により看護学生の国際交流が難しくなっている現状を踏まえ、真のグローバル人材についてどのような将来像を描いて育成するのかの示唆を得る。

開催日時：2024 年 12 月 14 日（土）13：00～15：30

開催方法：Zoom ウェビナーによるライブ配信とオンデマンド配信

講師：森山 美知子 氏（広島大学 大学院医系科学研究科 成人看護開発学 教授）

西村 直子 氏（大手前大学 国際看護学部 教授）

講演内容：国際交流における日本の看護系大学の役割について

プログラム：

13：00～13：10 開会挨拶

13：10～13：45 講演 1「国際大学ネットワークや JICA を活用したグローバルな看護人材の育成」

13：45～13：55 質疑応答

13：55～14：30 講演 2「自分のいる場所で始めるグローバル：夢は大きく平和貢献」

14：30～14：40 質疑応答

14：40～14：50 休憩

14：50～15：20 シンポジウム

15：20～15：30 閉会挨拶

当日参加者：31 名

動画配信期間：2024 年 12 月 19 日～2025 年 3 月 19 日

動画視聴回数：214 回

講演概要

講演 1「国際大学ネットワークや JICA を活用したグローバルな看護人材の育成」

講師：森山 美知子（広島大学 大学院医系科学研究科 成人看護開発学 教授）

広島大学が進める国際的な人材育成の取り組みについて紹介いただいた。広島大学は、56 カ国 360 機関と大学間協定を結び、さらに 22 カ所に国際研究教育拠点を有するなど、世界規模での国際連携を推進しており、特に、インターナショナル・ネットワーク・オブ・ユニバーシティーズ（INU）を活用した活動では、異文化理解や平和学習を重視した看護教育を展開していること、サマースタッフでは「災害看護」「医療安全と看護の質」「看護の国際的な役割」などのテーマを掲げ、学生と教員がディスカッションやシミュレーションを行い、多文化共生を学ぶ機会を提供していることを紹介いただいた。



また、JICA との連携によるユニバーサルヘルスカバレッジ長期研修では、中低所得国の医療人材を育成していること、留学生は日本の高度な医療技術や看護管理を学び、母国での看護発展に貢献していること、英語による授業や学術交流を進め、留学生の受け入れ環境整備に注力していることを紹介いただいた。さらに、留学生たちが学部学生の教育にも関わり、学部学生に身近にグローバル化を感じる工夫をされていることを紹介いただいた。

課題としては、日本人学生の英語力向上や、多文化社会への理解促進、また留学生支援の充実が挙げられた。これらに対し、広島大学ではカリキュラムの改編や英語教育の強化、留学プログラムの拡充に取り組んでおり、今後も国際的な看護人材育成においてリーダーシップを発揮していく方針が示された。

Q&A：講演後の Q&A では、主に日本人学生と留学生間の教育環境の違いや留学生の受け入れに関する課題、そして国際化における助教の役割について質疑応答がされた。日本人学生の語学力不足が課題であり、現在は、留学生と分けた授業をしていることを説明いただいた。また、留学生が広島大学を選ぶ理由については、海外プロジェクトや政府の支援が大きいことが挙げられた。一方で、留学先の選択肢として、世界では日本が三番手となっている現状や、留学生が帰国せず日本で就職するケースの増加も課題として挙げられた。助教の国際化への貢献については、国際共同研究や英語論文の発表が重要であるとし、SNS や学会を活用した国際的なネットワーク構築が推奨された。日本の医療や看護の優れた技術を世界に広め、現地を発展させる取り組みの重要性が強調された。

講演2「自分のいる場所で始めるグローバル：夢は大きく平和貢献」

講師：西村 直子（大手前大学 国際看護学部 教授）



大手前大学では、2019年に国際看護学部を開設、西村氏は国際看護学部の教育・研究活動に従事し、JBI（JoannaBriggsInstitute）センターのディレクターとして、エビデンスに基づく看護の普及に取り組んでおり、ラオスや韓国など海外の教育・医療機関と連携、学生・教員間の国際交流を促進していることを紹介いただいた。また、日本から海外への留学率の低さや、多様性に接する機会が限られている現状が課題であること、同大学では、学生が日常的に異文化に触れる機会を増やすため、短期留学や海外からの受け入れプログラムを実施していること、特に国際看護学実習では、学生が海外の医療現場で異文化を体験し、言語や文化の壁を乗り越える力を養うことを重視していることを紹介いただいた。また、語学力や異文化理解を看護教育全体に組み込み、すべての教員が多様性教育に関わる仕組みを構築し、領域ごとに「多様性」「国際力」を取り入れた学習モデルを設定、学生の寛容性と実践力を育成していることを紹介いただいた。国際交流の取り組みを通じて、学生が相手国を理解し、友好関係を築くことで、平和への貢献を目指していることや国際社会の中で日本が果たすべき役割を再認識し、看護教育を通じて学生が広い視野と多様性を尊重する姿勢を持つことの重要性について講演いただいた。

Q&A：バディー制度についての質問に対し、国際実習の際に現地大学の学生とペアを組み、滞在中の活動全般をサポートしてもらう仕組みであり、この制度は、日本への留学生の受け入れプログラムでも部分的に採用されており、学生間の交流促進に寄与していることを説明いただいた。次に、国際交流を担当する大学職員の研修についての質問では、特別な研修は行っていないものの、語学力のある職員がその役割を担っていると述べられた。最後に、外国籍の教員が日本の看護大学で国際看護に貢献する方法について、「違い」を強みにすることが重要であること、日本では当たり前とされることを異文化の視点から疑問視し、それを共有することで大きな貢献が可能であると述べられた。

シンポジウム

森山氏と西村氏から看護教育における国際交流や多様性を推進する上での課題と取り組みについて説明いただいた。国際交流を支える資金面について、渡航費や滞在費は基本的に自己負担であり、一部の学生は奨学金制度の支援を受けている現状が共有された。経済的負担が学生の国際経験の制約になることも課題として挙げられた。また、英語力の向上が日本人学生にとって喫緊の課題である一方で、AI翻訳技術の活用が新たな可能性を開いている点も議論された。看護実習のあり方については、日本と海外での実習内容の違いが大きく取り上げられた。例えば、スウェーデンの学生は侵襲的な技術を実践できる環境を期待して来日するものの、日本の病院ではそうした機会が限られているため、満足を得られないことが指摘された。また、国際実習に帯同する教員は、学生のサポートや通訳として重要な役割を果たしており、現地の文化や医療体制に応じた柔軟な対応が必要とされていることが説明された。

さらに、留学生の受け入れでは、日本人学生との交流の難しさや文化的なギャップが課題となっており、特に、留学生と日本人学生の交流を深めるための仕組み作りが必要とされ、有志のボランティア活動やバディー制度がその一助となっている現状が報告された。

最後に、多様性や国際性を重視した看護教育の重要性が強調された。社会の国際化が進む中で、看護師が多文化社会で効果的に対応できるスキルを身につけることが不可欠であり、カリキュラム改革や教育方針の見直しが求められていることが共有された。

(2) 先駆的な国際交流活動を行っている大学の視察調査等の助成事業

募集期間は9月11日から10月11日、17件の応募があった。10月12日から10月31日に選考を行い、大阪医科薬科大学、東邦大学（看護学部看護学科）、福岡女学院看護大学の3校を採択することを決定した。

審査方法は、5つの審査項目を定め、優れている（4点）、どちらかと言えば優れている（3点）、どちらかと言えば優れていない（2点）、優れていない（1点）の20点満点で審査（点数化）し評価コメントを検討した。得点（審査人数による平均値）の高い順に採択校を決定した。ただし、自校の申請や利益相反のおそれがある理事・委員は当該申請の選考には加わらなかった。想定を超える数の応募があったため、申請内容より妥当な助成額を検討し、会長へ審査結果を報告し、会長決裁の予備費からの支出を相談の上、採択校を決定した。審査項目は、目的の妥当性（国際交流活動の意義）、看護学への貢献、独創性があり先駆的か、経費の妥当性（計上されている経費を精査）、準備状況・計画実現の可能性の5つとした。

当初より予算計上している200万円に会長決裁の予備費50万円を加えた合計250万円の中で3校への一部助成を決定した。

(3) 委員会の開催

第1回国際交流委員会

日時：2024年8月26日（月）18：00～19：00

開催方法：Zoomを用いたWeb開催

出席者：（理事）池松 裕子、櫻井 しのぶ、（委員）中村 敦子、若林 律子

議題：

- 1) 2024年度委員会活動について
- 2) 研修会について
 - (1) 日時、プログラムについて
 - (2) 講師、講演内容の報告
 - (3) 研修会の当日業務の担当
- 3) 助成事業について
- 4) 今後のスケジュール

第2回国際交流委員会

日時：2025年1月29日（水）13：30～15：00

開催方法：Zoom を用いた Web 開催

出席者：(理事) 池松 裕子、櫻井 しのぶ、(委員) 中村 敦子、若林 律子

議題：

- 1) 研修会の振り返り
- 2) 2024 年度事業活動報告について
- 3) 2025 年度事業活動計画案について
 - (1) 研修会について
 - (2) 助成事業について
- 4) 今後のスケジュール
- 5) その他

4. 今後の課題

国際的に活躍できる看護人材の育成にむけた看護学教育のあり方について、情報交換と交流を推進し、グローバル社会のニーズに対応する国際看護教育のあり方及びカリキュラムの体系化について議論を深める。また、地域や医療現場だけではなく、大学においても多様な文化を背景に持つ教職員と相互理解を深め、共に働くために必要な人材育成の展望に向けた議論を進めていく。

令和6年度 一般社団法人 日本私立看護系大学協会 国際交流委員会企画 研修会
アンケート結果

テーマ：これからの国際交流—グローバルな看護人材の育成の現状と展望—

開催日時：2024年12月14日（土）13：00～15：30

参加者：当日 Zoom 参加 31 名、オンデマンド配信視聴 214 名 計 245 名

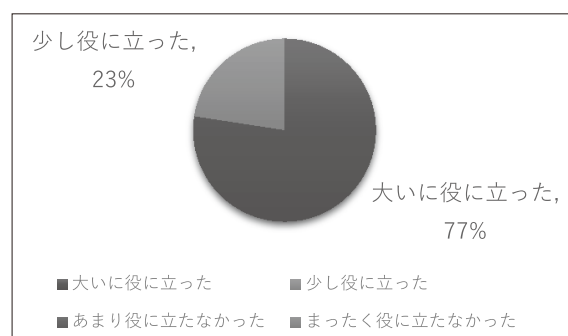
回答者数：31 名

回答率：12.7%

【講演や企画について】

講演1 広島大学 教授 森山美知子先生のご講演内容はいかがでしたか。

	人数	割合
大いに役に立った	24 人	77%
少し役に立った	7 人	23%
あまり役に立たなかった	0 人	0%
まったく役に立たなかった	0 人	0%
合計	31 人	100%



講演1 広島大学 教授 森山美知子先生のご講演についてのご意見・ご感想などを入力ください。

（自由記載）

n=13

（教育体制について参考になった）

- ・国際看護学の教育体制作りについて、非常に参考になった。
- ・留学生の話や大学全体、看護学科、世界における交流の仕方など大変参考になった。
- ・海外と日本の看護学生の実習内容の差は予想外だった。
- ・大学院生時代は、英語力を伸ばしたく積極的に留学生と話すようにしていた。今年度はそのうちの一人と国際共同研究を行っている。先生のご講演を聞いて、良い環境で大学院生活が送れたことを再認識した。

（今後の取り組みについて再認識した）

- ・留学生の受け入れや JICA を活用して、広島大学が先進的な国際交流をされていることがわかりました。看護系大学としてどのようなグローバルな看護人材を育成したいのか、どんな看護職が求められているのかということ、もう一度考えていきたいと思います。
- ・大変先進的で、感激ばかりです。なかなかグローバルな視点で学生養成を考えていませんでしたが、実際に教えていただき今後は考えていかなければいけないと思いました。
- ・外国籍の方々を受け入れる、関わるということは、多様で複雑な状況を改善していこうという方向ではなく、共にあるためにどうしていこうという方向性でないといけない、という認識を改めて持つことができました。

（理想とする大学の在り方がわかった）

- ・留学生と学部生が教育を通して交流できる機会がとても魅力的でした。
- ・海外からの留学生がキャンパス内にいるだけでなく、TA として学部教育に関わることで、留学生にとってもキャリアを磨くことに繋がり、学部生にとってもいい刺激となり異文化に自然と触れる機会になっているので、理想的だなと感じました。勤務する大学では留学生の受け入れが、特に英語対応が難しい状況ですが、現実外国人労働者は地域でもかなり増えてきているので、留学

生の受入れも今後出来ていくといいなと思いました。

(講師の所属する大学の取り組みへの称賛)

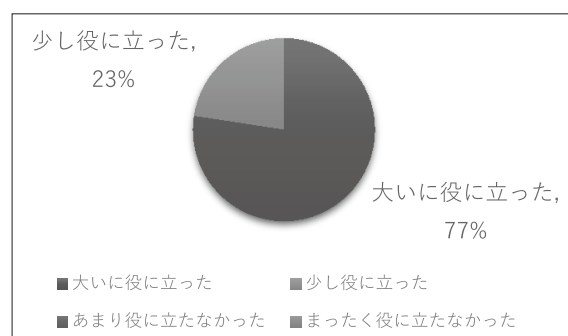
- ・国際的な取り組みを大学が推進していることに感動しました。
- ・とにかく素晴らしいです。
- ・看護のカリキュラムで1セメスターを空けるというのはかなりのチャレンジではないかと思いますが、大学としてのグローバル化への意欲の高さを感じました。

(その他)

- ・分かりやすいパワーポイント資料、そして先生の引き込まれる講義を受ける機会が持てて、感謝いたします。

講演2 大手前大学 教授 西村直子先生のご講演内容はいかがでしたか。

	人数	割合
大いに役に立った	24 人	77%
少し役に立った	7 人	23%
あまり役に立たなかった	0 人	0%
まったく役に立たなかった	0 人	0%
合計	31 人	100%



講演2 大手前大学 教授 西村直子先生のご講演についてのご意見・ご感想などを入力ください。

(自由記載)

n=12

(具体的な展開方法について参考になった)

- ・看護学科全体で取り組む体制の構築やレディネスを踏まえた体制作りなど、とても参考になりました。
- ・具体的な国際交流や国際看護実習の展開を知ることができ、とても興味深かったです。看護の一教員として、自分自身も多様性やグローバル社会に対応できる人としてどうありたいか、考えさせられる内容でした。
- ・各領域の概論で多様性を学ぶ機会があることや、演習で英語のロールプレイを行うことは、これからの日本での看護にもすぐに実践できる教育内容だと思いました。大変魅力的なプログラムです。
- ・西山先生ご自身がオーストラリアで学習していた際の体験や日本との違いも参考になりました。大学内での教員のかかわり方や仕組みも参考になりました。

(今後の取り組みについて再認識した)

- ・森山先生の感想と同様に、大変先進的で、感激ばかりです。今後できるところから取り組んでいかなければならないことがよくわかりました。
- ・全領域で国際看護教育に取り組まれているのがすごいと感じました。4年間体系的に国際・看護の科目があって、学生達は卒業時にはグローバルな視点や行動力が養われるのだろうと感じワクワクしました。教員の5つのCredもとても参考になり、自身も取り入れて頑張っていきたいと思いました。

(大切にポイントが理解できた)

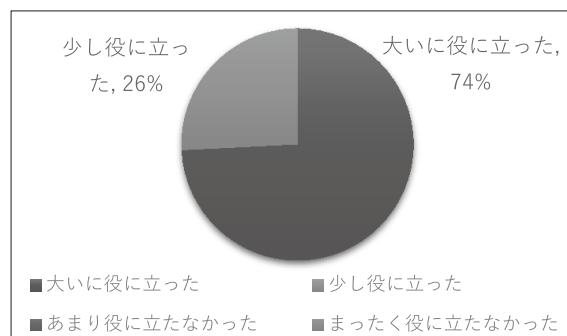
- ・グローバル化のキーワードとして「寛容力」を挙げていた点がとても興味深く、とても大事なポイントだと思いました。
- ・「多様であることへの寛容性」という言葉と「教員がグローバル人材であること」という言葉に大変共感いたしました。学内でこのアイデアを共有していきたいと思います。

(その他)

- ・国際看護学部という学部があることすら知らなかったので、一つ一つがとても興味深い内容でした。
- ・先生の海外留学時代のご経験を通してのお話にも興味を持ってました。また、講義内容も分かりやすかったです。
- ・海外まで実習生を連れていって、想像できない大変さだと思います。尊敬しております。

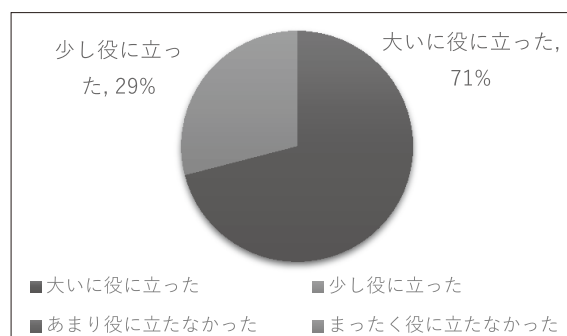
シンポジウムはいかがでしたか

	人数	割合
大いに役に立った	23 人	74%
少し役に立った	8 人	26%
あまり役に立たなかった	0 人	0%
まったく役に立たなかった	0 人	0%
合計	31 人	100%



大学の職務として、グローバルな人材育成を行う上で、今回の企画「これからの国際交流ーグローバルな看護人材の育成の現状と展望ー」の企画はお役に立ちましたでしょうか。

	人数	割合
大いに役に立った	22 人	71%
少し役に立った	9 人	29%
あまり役に立たなかった	0 人	0%
まったく役に立たなかった	0 人	0%
合計	31 人	100%



今回の企画「これからの国際交流ーグローバルな看護人材の育成の現状と展望ー」についてのご意見・ご感想などを入力ください。看護学教育への活用についてご意見を頂戴できれば幸いです。

n=16

(参考になり役立った)

- ・当方も大学で国際看護学、国際交流に携わっておりますが、包括的な体制作りなど大変参考になりました。ぜひ今後の大学での国際看護学運営にも参考にさせていただきたいと思います。
- ・所属大学にはない取り組みを多く拝聴でき、大変有意義な時間でした。
- ・大学院も含めたお話や留学生、国際研究、大学の留学生へのバックアップなども、大変参考になるお話ばかりでした。まだまだそこまで及ばない大学に所属しておりますが、日本の位置づけについても考えることができました。
- ・国際看護の科目を担当していますので、今日の研修は自身の教育に役立つものでした。やっておられることはとてもすごいことで、とても真似はできませんが、出来ることから始めていきたいと思います。演習にロールプレイを入れることにまず取り組みます。
- ・国際交流に関する科目や研修の運営に際し、人、物、資金を上手に活用していくことの必要性を学ぶことができました。今後役に立てたいと思います。

(今後に取り組みたいこと、必要だと思うこと)

- ・すでにプログラムされている教育機関の話を聞かせていただいた。初期段階での準備（プロセスや内容）についても学習していきたい。
- ・大変勉強になりました。今後も参加させていただきたいです。
職位は下でも、自分の語学力を磨く、研究を進めるなどできることはたくさんあることが分かりました。
- ・語学力と多様性は大事であると思いました。学生さんたちにその点を伝えていくと共に、私自身も肝に銘じたいと思いました。
- ・わたしは西村先生と同じく海外の看護師免許を持っていますが、まだまだ研究力やネットワークに繋がっていけないので、さまざまな人と関わりをもち、研究力を向上していきたいと思いました。
- ・社会全体のグローバル化が進む中で、ITと英語力は必須だと感じました。教員として、常に意識していかなければならないと思いました。
- ・最後に締めくくられていたように、日本国内の外国人が増えていること、また英語圏でない人が増えていることを鑑みると、海外での国際看護と国内での国際看護の両方、また英語や日本語を話せない人への看護という所を含めてグローバルな看護人材の育成が必要だと感じました。
- ・国内における外国人の多さを実感しているところです。多くの卒業生が働く病院にも黒人患者や利用者をみることが増えました。海外での演習や実習を組み込むことは現状大変難しいのですが、基礎教育の中でも異文化理解や課外の方々をケアするための語学など始める必要があると痛感しました。

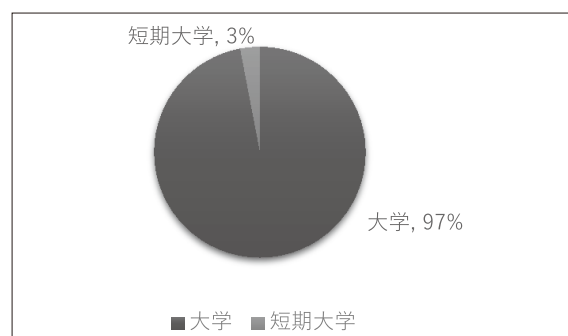
(その他)

- ・最後に櫻井委員長がお話された臨床にインバウンドの方々が多く来院されていることへの展望、教育計画などについての内容をお聞きしたいと思っておりしました。海外へ行くことも大事ですがすでに現在、国内の臨床現場は大変です。安全性、経済的観点からも教育計画を検討していただければと思っております。
- ・グローバルな視点を持つ教員をどのように確保するのか、とても気になりました。
- ・国際看護を授業に入れるのは、経験がある教員が少ないため、授業内容が浅はかになってしまい、大学によって到達レベルがまちまちである可能性がある。

【参加者ご自身について】

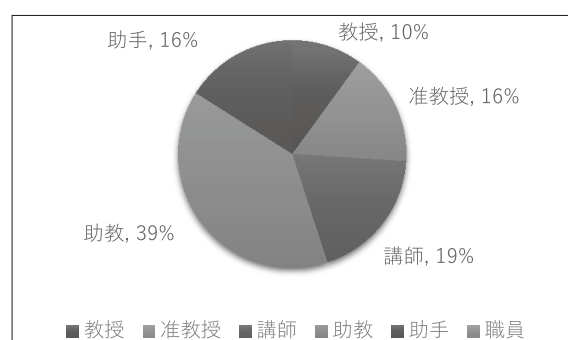
ご所属について、該当するものを選択ください。

	人数	割合
大学	30 人	97%
短期大学	1 人	3%
合計	31 人	100%



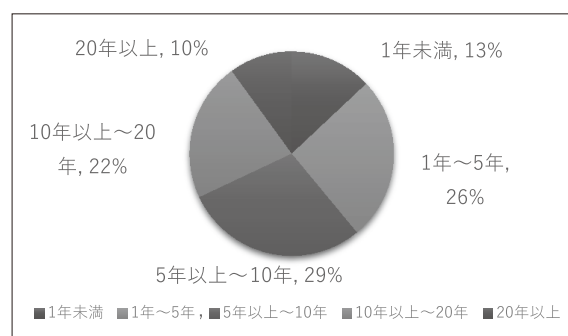
職位について、該当するものを選択ください。

	人数	割合
教授	3 人	10%
准教授	5 人	16%
講師	6 人	19%
助教	12 人	39%
助手	5 人	16%
職員	0 人	0%
合計	31 人	100%

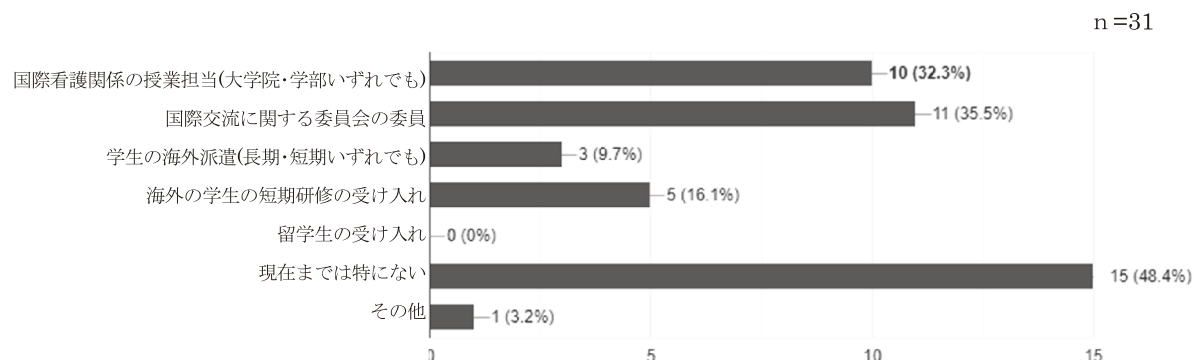


教員としての在職期間についてお聞かせください。

	人数	割合
1 年未満	4 人	13%
1 年～5 年	8 人	26%
5 年以上～10 年	9 人	29%
10 年以上～20 年	7 人	22%
20 年以上	3 人	10%
合計	31 人	100%

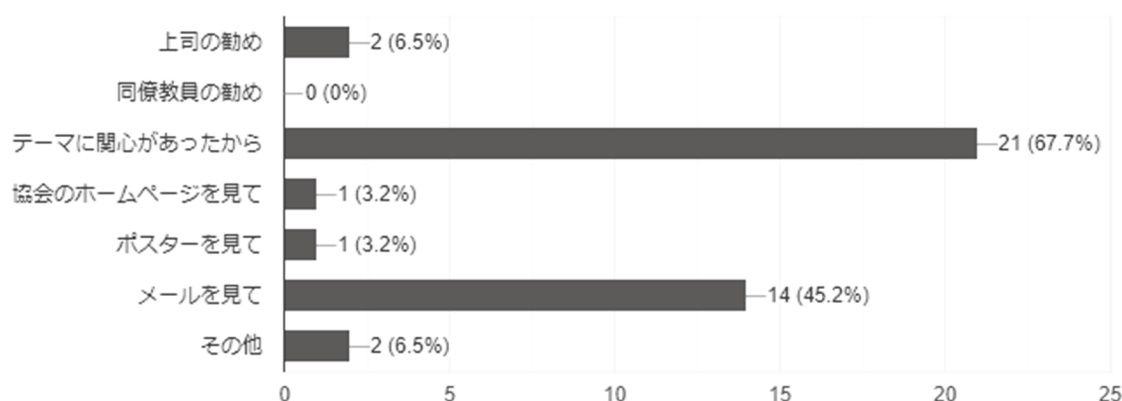


国際看護や国際交流に関する職務について、該当するものを選択ください。（複数回答可）



今回の研修参加のきっかけは何ですか。該当するものを選択ください。(複数回答可)

n=31



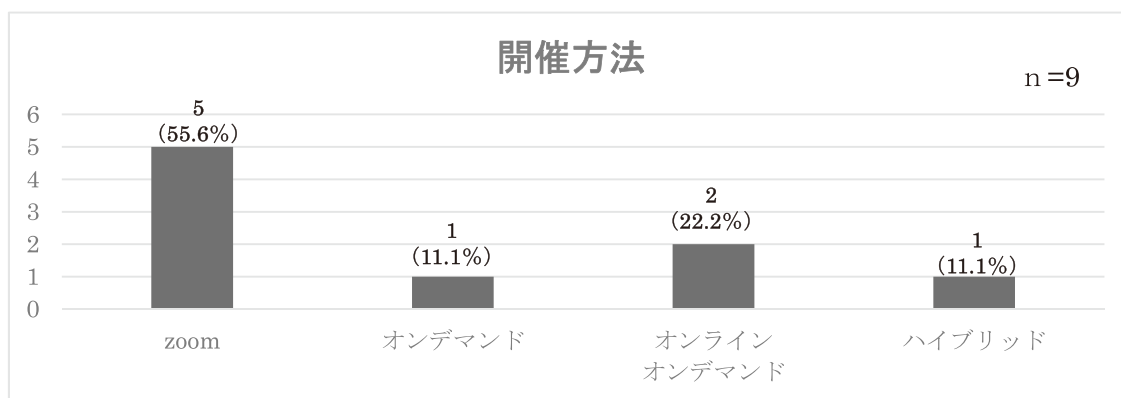
今後、日本私立看護系大学協会 国際交流委員会で行う事業について、希望するテーマ、開催方法、開催時期、開催場所など忌憚のないご意見をお願いいたします。

7 件の回答

- ・授業の最終到達目標の統一化
- ・看護系大学での国際交流の実際、看護の過密なカリキュラムへどのように含めているのか
- ・各大学で工夫されている授業や活動等の共有、大学院生と学部それぞれでどのように海外と交流しているか
- ・プログラムや仕組み、立ち上げに至るまでなど
- ・国際看護学教育の中での、在留外国人看護に関する内容
- ・グローバルな学生を育成するための教員に求められる役割とは
- ・国際看護講義内容

〈開催方法〉

n=12

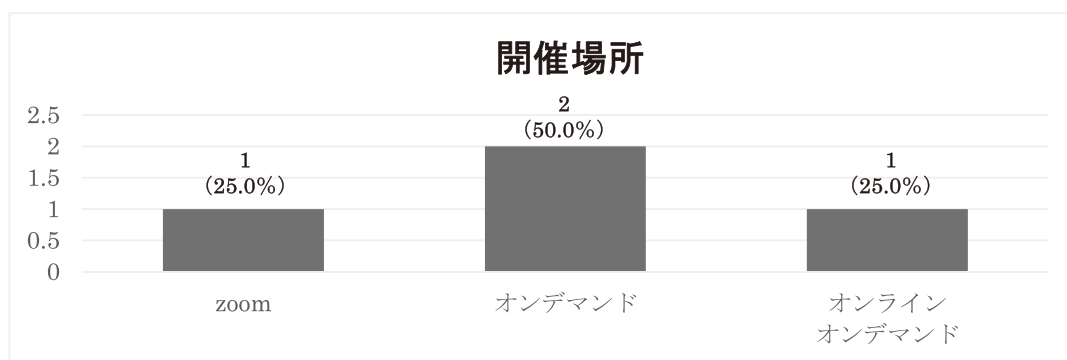


〈開催時期〉

- ・土日ならいつでも良い。
- ・いつでも可
- ・今回と同様で
- ・3月頃
- ・週末

〈開催場所〉

n = 4



【考察】

ご講演いただいた2名のご講演内容いずれにおいても「大いに役立った」が約8割であり、自由記載では「留学生の話や大学全体、看護学科、世界における交流など参考になった」や「学科全体で取り組む体制の構築やレディネスを踏まえた体制づくりなど参考になった」などがみられ、今後の受講者自身の教育活動に活かされることが期待された。また、外国籍の方々との共生においては自身がグローバル人材であることや寛容力を大切にするなど個人が取り組みたい目標も見られた。シンポジウムでは質疑応答を交え、2名の講師から参加者の所属大学にはない取り組みや工夫点を聴講し、有意義な時間を持てたことが伺えた。

今後希望するテーマについては「授業の最終到達目標の統一化」「各大学で工夫されている授業や活動の共有」などのカリキュラムに関することや「グローバルな学生を育成するための教員の役割」がみられた。

参加者の所属は概ね「大学」であった。職位は「教授、准教授」が約5割を占めた昨年と比べ、「助教」が約4割「講師」が約2割であり、構成に変化がみられた。研修参加のきっかけは「テーマに関心があったから」が最も多く、関心の高いテーマであったと考える。開催方法については、対面よりも時間的に自由度の高い「オンライン」や「オンデマンド配信」の希望が多かった。

4. 大学運営・経営委員会

1. 趣旨

- ①私立看護系大学の振興に必要な国、地方公共団体又は民間からの補助金、寄付金、その他の支援が可能になるような実態調査・分析
- ②大学運営・経営の向上に繋がる事業を展開するための方策の調査

2. 担当理事および委員（○：委員長）

○井上 智子（国際医療福祉大学）
岡田 みどり（川崎医療短期大学）
竹田 恵子（川崎医療福祉大学）
永田 智子（慶應義塾大学）

3. 2024 年度事業活動報告

(1) 研修会の開催

テーマ：学生募集に効果的な大学のブランディングを高めるための戦略

目的：18 歳人口減少を受け学生募集のための効果的なブランディングを知る

開催日時：2024 年 10 月 21 日（月） 13：30～16：40

開催方法：Zoom ウェビナーによるライブ配信とオンデマンド配信

講師：押田 浩幸 氏（株式会社進研アド 営業本部 東京支社長）

飯島 隆介 氏（株式会社リクルート リクルート進学総研 研究員）

プログラム：

13：30～13：40 開会

13：40～14：50 講演 1「大学や高校を取り巻く環境の変化」

14：50～15：00 質疑応答

15：00～15：10 休憩

15：10～16：20 講演 2「私立大学のブランディングの在り方とその重要性について」

16：20～16：30 質疑応答

16：30～16：40 閉会挨拶

当日参加者：144 名

動画配信期間：2024 年 10 月 23 日～2025 年 1 月 23 日

動画視聴回数：635 回

講演概要

井上智子委員長の司会のもと、看護系大学の学生募集に効果的なブランディングに関する、お二人のご講演者による講演が行われた。

講演 1

押田浩幸氏（株式会社進研アド）からは、「大学・高校を取り巻く環境の変化について」というテーマでご講演いただいた。まず、受験生マーケットの変化についてデータに基づきご説明いただいた。社会状況の変化に伴い、私立大学の医療系の志望者数は減少傾向が続いており、看護系の志願者数の減少幅も大きいことが示された。また、入試全体をみると年内選抜の比率が高まり一般選抜の競争が緩和していることが示された。これにより、複数大学を併願しなくても合格できることから、受験生の大学調べの動機付けが下がるとのことであった。さらに、高校生の環境をみると、学習指導要領の変更により、より探究的な学びが重視されるようになっており、高校と大学の連携への期待も大きくなっていることが示された。



講演 2

飯島隆介氏（株式会社リクルート）からは「私立大学のブランディングの在り方とその重要性について」というテーマでご講演いただいた。リクルートブランド力調査に基づき、各校の知名度と志願度の現状を詳細にご報告いただいたのち、データに基づき、最近の高校生に対する募集戦略についてお話しいただいた。高校生の大学選びにおける情報源が、高校の先生および進学情報サイトが中心であり、自分自身に最適化された情報収集の時代に変化していることが示された。



いずれのご講演においても、高校生による看護系大学への進学志向に働きかけるには、高校入学前からの接点を強化すること、高校生の興味があるテーマや社会課題と「看護」との繋がりを「見える化」すること、各大学で「自分が成長できる」ことを具体的にアピールすること、看護学を学ぶことによるキャリアの拡がりを伝えることなどがポイントとして挙げられた。質疑応答においては、高校生の進学先決定時期の早まりや、現在の社会情勢下で看護系人気が下がっているという現状やその背景に関する確認が行われるとともに、高大連携の具体的な方法論についてのさらなる情報提供が行われた。最後に、井上委員長より、看護系大学による学びが生涯を通してのキャリア形成につながることを、積極的にアピールしていくことの必要性について改めて確認され、研修を締めくくった。

(2) 4年制大学の教育等に関する実態調査の実施と報告書の作成（JANPU との合同）

調査依頼：10月7日に調査票（エクセルファイル）を送付

調査期間：10月15日から12月26日

(3) 短期大学の教育等に関する実態調査の実施

調査依頼：10月15日に調査票郵送

10月21日に調査票（エクセルファイル）をメールにて送付

調査期間：10月21日から12月13日

(4) 委員会の開催

第1回大学運営・経営委員会

日時：2024年9月4日（水）14：00～14：30

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

出席者：井上 智子、岡田 みどり、竹田 恵子、永田 智子

議題：

- 1) 2024年度委員会活動について
- 2) 研修会について
- 3) 今後のスケジュールについて
- 4) その他

第2回大学運営・経営委員会

日時：2025年1月28日（火）13：00～13：40

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

出席者：井上 智子、岡田 みどり、竹田 恵子、永田 智子

議題：

- 1) 研修会の振り返り
- 2) 2024年度事業活動報告について
- 3) 2025年度事業活動計画案について
- 4) 今後のスケジュールについて
- 5) その他

(5) 「看護系大学の教育等に関する実態調査」合同会議

第1回合同会議

日時：2024年4月16日（火）13：00～14：30

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

議題：

- 1) 集計結果・図表の確認
- 2) 今後のスケジュールと対応
- 3) 看護系大学に関する実態調査 最終報告書について
- 4) その他

第2回合同会議

日時：2024年9月4日（水）18：00～18：50

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

議題：

- 1) 各委員会委員の紹介
- 2) 「2023 年度看護系大学に関する調査」内容の変更についての審議
- 3) 今後の実態調査スケジュールと分析の担当

第 3 回合同会議

日時：2025 年 2 月 17 日（月）15：30～16：30

開催方法：Zoom を用いた Web 会議

議題：

- 1) 2023 年度看護系大学に関する実態調査（2024 年度実施）の集計について
- 2) 今後の検討事項
- 3) その他

4. 今後の課題

- 1) 4 年制大学および短期大学の教育・危機管理等に関する実態調査結果から、4 年制大学および短期大学の運営・経営改善に関する方策を提案する。
- 2) 大学運営・経営に関する研修会を企画し、学校法人の経営戦略等についての情報を発信する。

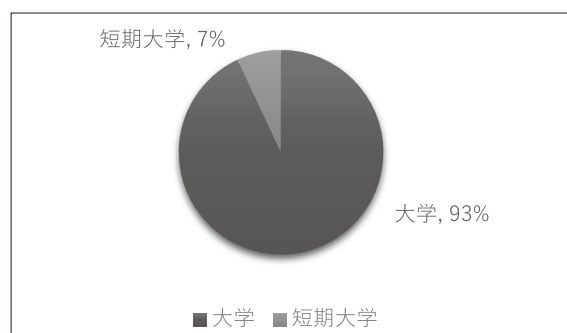
一般社団法人日本私立看護系大学協会 大学運営・経営委員会
「学生募集に効果的な大学のブランディングを高めるための戦略」アンケート結果
当日参加者 144 名 動画視聴回数：635 回
アンケート回答者：107 名

Zoom を用いたライブ配信
開催日：2024 年 10 月 21 日（月）
動画配信期間：10 月 23 日～1 月 23 日

1. 参加者について

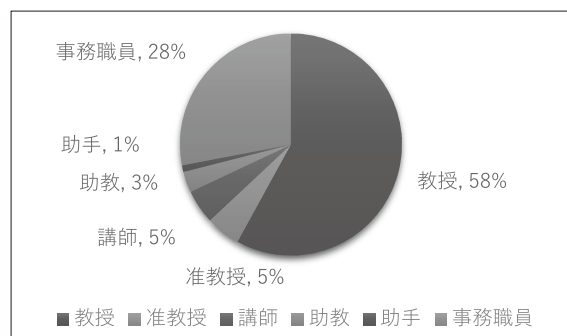
①所属

	人数	割合
大学	99 人	93%
短期大学	8 人	7%
合計	107 人	100%



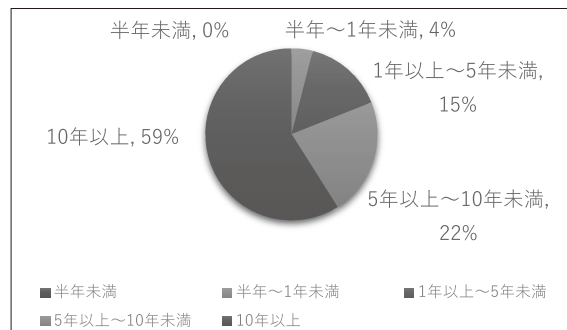
②職位

	人数	割合
教授	62 人	58%
准教授	5 人	5%
講師	6 人	5%
助教	3 人	3%
助手	1 人	1%
事務職員	30 人	28%
合計	107 人	100%



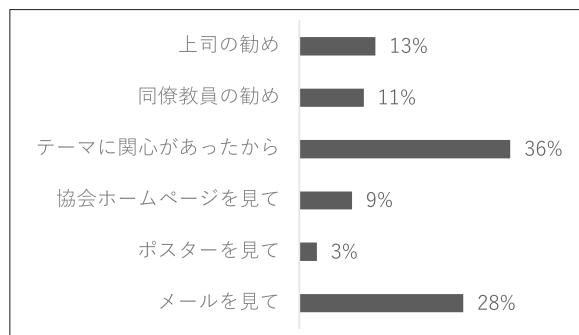
③在職期間

	人数	割合
半年未満	0 人	0%
半年～1 年未満	4 人	4%
1 年以上～5 年未満	16 人	15%
5 年以上～10 年未満	23 人	22%
10 年以上	62 人	59%
合計	105 人	100%



④参加のきっかけ（複数回答可）

	人数	割合
上司の勧め	20 人	13%
同僚教員の勧め	17 人	11%
テーマに関心があったから	56 人	36%
協会ホームページを見て	14 人	9%
ポスターを見て	5 人	3%
メールを見て	45 人	28%
合計	157 人	100%



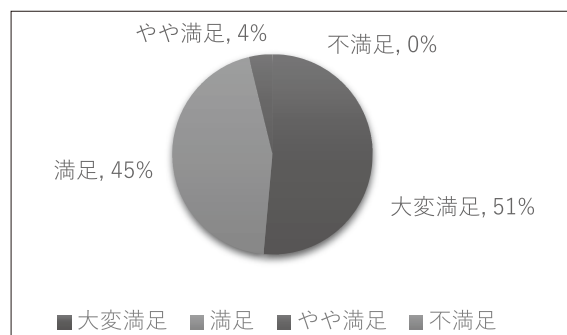
2. 講演について

①「大学や高校を取り巻く環境の変化」

講師：押田 浩幸 氏（株式会社進研アド 営業本部 東京支社長）

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	54 人	51%
満足	47 人	45%
やや満足	4 人	4%
不満足	0 人	0%
合計	105 人	100%



2) ご意見、感想など

- ・資格職に胡坐をかいていましたが、頭の良い生徒さんにこそ自分が成長できそうだと感じられるような具体的な方策をアピールできるよう努めようと思いました。
- ・現代の学生の現状や、高校の実態が理解でき、高校への出張講義の際に活かしたいと思った。
- ・年内入試の重要性や高校生の考え方の変化について、あらためて勉強させていただきました。
- ・大学教育を取り巻く厳しい現状を再確認できました。
- ・大変興味深い内容でした。もっと詳しく知りたいと思います。シリーズ化いただければ幸いです。
- ・看護系大学のおかれている現状がよくわかりました。
- ・高校生の関心をひけるように、大学の紹介を行うよう心がけていきたいと思いました。探求学習についても大学側に協力の要望がありますが、このチャンスを活かすことが大切なのだと再認識いたしました。
- ・次年度の学生募集に向け、大変参考になりました。
- ・年内選抜がこれほど増えていることをデータで知ることができました。また、大学案内で高校を訪れることがありますが、説明の内容はニーズに合致しておらず魅力に欠けるものであったと理解できました。
- ・探求の授業などの影響は予測していましたが関連性をしっかり提示され納得できました。高校との関係の強化に向けた策には探求の授業もしっかり念頭に入れるようにします。
- ・とても参考になりました。
- ・データをもとにご説明いただき、わかりやすかったです。
- ・高校でどのようなことを学んでいて、それがどう進路選択に結び付くのかを知ることができ、今

後の参考になりました。

- ・看護の希望者の偏差値帯が 40 以下も多く、実際に今まで教員を務めてきて低くなったと思います。学習習慣がなく、学習量も少ない最近の学生を 4 年で仕上げるのは難しく、入学生の確保が AP にあっていない実情からも苦しいものがあります。
- ・統計等がたくさんあり、とても参考になりました。
- ・人口減や希望大学の分野・職種などの確かな変化があることが分かり、大変参考になった。
- ・医療系大学という看板だけでは募集が難しいことは肌感覚で感じているが、データで見てその感覚が間違っていないと感じた。
- ・ご講演いただいた内容をもとに学内で今後のカリキュラムを含めて検討をしていきたいと思います。
- ・高校の探求的活動や DX の経験が学部教育とどうつながるか、学部の特徴を具体的に認知できる学部説明の工夫、中学校・高校低学年へのアクションの必要性など確認できました。
- ・看護学部のポジションが良く分かった。
- ・時代の流れと共に看護職としても大切な、課題を探究できる人材を育成しようとしている教育の流れを知ることができた。しかし、看護教育をする側の考え方がまだそれに追いついていないことが問題ではないかと思われる。教員として、さらなるビジョンの共有に取り組み、教育の在り方を検討する必要があると感じた。
- ・今後の学生の動向などもわかり、非常に参考になりました。
- ・入試担当部門の考えている方向と本日のお話の内容はほぼ齟齬がないことが分かりましたので自身の考えを整理できる機会になった。
- ・環境変化は 18 歳人口減とともにコロナが大きく影響したと思うが、とりわけ高校での取り組みと大学での教育・学修活動との連動がカギを握っているかと感じる。本学に至っては、まだまだ高大接続が進んでいるとは感じられない。
- ・人気がある学問分野を見て、進学校を中心とした分析なのではないかと思いました。看護学を志向する高校生に特化した情報をいただきたいと思いました。以前、進研ゼミの報告を聞いた際、偏差値 50 以上と以下では、生徒の意識が異なると聞いたことがあったので、その点を踏まえてお話しただけると、余計な不安を感じなくてよいのではないかと思った。
- ・豊富なデータと丁寧な説明で、大学や高校を取り巻く現状がよく分かりました。大学経営に直接関わる立場ではありませんが、学生募集の今後や大学が今何をすべきかを真剣に考えたいと思いました。高校のカリキュラムや中高生のニーズに関心をもつ必要性を強く感じました。参加して本当に良かったです。
- ・世代に合わせた大学の PR が重要であることがわかりました。成功事例の報告も参考になると思います。
- ・入学志願（職業選択）について、既に高校 1 年、早ければ中学生時代におおよそ決定している状況を示していただき、オープンキャンパスの対象を拡大する必要性、また本学の特徴をより前面に出す工夫などの必要性を強く感じました。
- ・データに基づいての講義できちんと視覚的にとらえることができた。
- ・学生は Z 世代と言われ、日々対応に苦慮している。環境全体を知る良い機会になった。
- ・高校生の動向、意識を知ることができ、これに合わせた戦略を練る必要を感じました。
- ・近年の変化についてよくわかりました。
- ・少子化で年々、厳しさが加速されていくのを実感します。一方、要配慮学生の増加など、大学教育の高等学校化で、教員の負担増・疲弊も深化するばかりです。
- ・大きな変化に戸惑い。
- ・よく理解できました。
- ・課題をやって来ない、やって来ていないのに平気で授業に参加する学生が多くなっています。その理由がわかりました。「なぜやって来ないんだ」という認識ではなく、そのように高校でも過

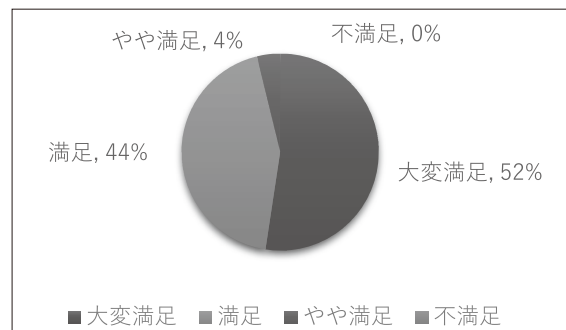
ごしていることがわかり、大学教員側の認識を改める必要があると強く感じました。

②「私立大学のブランディングの在り方とその重要性について」

講師：飯島 隆介 氏（株式会社リクルート リクルート進学総研 研究員）

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	55 人	52%
満足	46 人	44%
やや満足	4 人	4%
不満足	0 人	0%
合計	105 人	100%



2) ご意見、感想など

- ・看護師になった後のキャリアのイメージを伝える事の重要性を再認識した。
- ・認知が高くても志望が低いとなると、やるべき事は見えた気がします。
- ・ある程度想像はしていましたが、自大学の知名度・志願度から現実を突きつけられ、今後の大学の在り方や広報戦略について検討する必要性をより一層感じました。
- ・目下の本学の課題です。看護学を学ぶ人を単に増やすのみならず、看護師の資質向上も視野にいれて動くことが大切だと実感しました。ぜひとも続編を希望します。
- ・認知度と志願度のデータは参考になりました。
- ・世代の変化にあわせて、大学のPRを行うことや、看護師としてのキャリアの広がりや個別事例を通じて高校生に分かりやすく伝える工夫を行っていきたいと思います。
- ・本学の立ち位置が明確になり、大変参考になりました。
- ・説明内容がとても分かりやすく現在の課題と今後どうしたら良いのかイメージがわきました。
- ・看護学を大学で学ぶということが、一人の人の人生においてどれほど広がりを持つことなのか、私自身が考えさせられました。自分自身の視野はかなり狭かったと思います。
- ・公開されている進学ブランド調査は上位校のみだが、今回は看護のみに絞ったものが見られたので非常に勉強になりました（本学の立ち位置は予想の範囲内でした）
- ・とても参考になりました。
- ・これから考えていかなければならないことがたくさんあると感じました。ヒントをいただけてありがとうございました。勉強になりました。
- ・高校生に看護のキャリアパスを示していくことの重要性がよく理解できました。
- ・確かに時代は変わったと思います。α世代での学生のブランディングと、看護学がどのレベルで学生を社会に送り出せるか悩ましいです。
- ・進路選択行動の「早期化」について、本学でも戦略を考えていく必要があると感じた。
- ・大学の認知度、志願率の調査対象に短期大学が含まれていないのが残念なような、正直よかったような…複雑な思いです。どちらにしても、短期大学は大変厳しい状況ということを確認しました。
- ・高校生が希望する将来像など変化していることを踏まえ戦略をとらなければいけないことが理解でき、参考になった。
- ・職業人としての看護師のイメージを前面に押し出しすぎると、今の若い世代は返って敬遠するのではないか、プロフェッショナルとしての看護師は素晴らしいと思うが、まず選択肢に入らなく

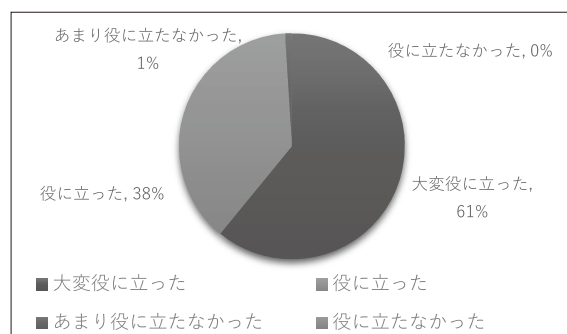
ては意味がないのだと感じた。

- ・高校生になった時点で志望分野を決めていることがわかり、もっと早くから広報活動をしていく必要があること、資格の取得率が良いだけでは選ばれない時代であることがわかり、とても勉強になりました。
- ・私共の大学の知名度も志願度も非常に低いことにショックを受けました。広報活動には、教員皆頑張っていますが、今日いただいたアドバイスをもとに、今後の広報戦略に力を入れていきたいと思います。現在は、若い人たちに様々な選択肢があり、看護が選ばれなくなっているということですが、看護の重要性を伝えていきたいと思いました。
- ・看護を志向する母集団の開拓と入学までの説明ではなく、キャリアパスや看護職の仕事の多様性など関心が持てる戦略が必要であることに気づき、オープンキャンパス資料の工夫に活用したい。
- ・特に大学選びのメディアの期待値の資料が参考になった。
- ・教育のビジョンと教育の在り方の検討をしながら、中期長期の計画を大学として検討する仕組みを作ることが重要と考える。
- ・昨年度に引き続き、貴重なご講演をありがとうございました。
- ・最新の高校3年生の調査データを使っていただきありがとうございます。次年度のみならず今後の方向性を考えるうえで大変参考になります。
- ・小規模大学がどうブランド力を上げていったらよいかを知りたかった。
- ・偏差値や進学率等で群分けされていたので、全体の傾向と、自学を受験するであろう学生の傾向がわかった。様々な情報伝達の手段があるが、結局進路を決断する際には、教師や親といった人からの情報が大切であることがわかった。ブランディングについては看護学でなくてもよいので、事例をいくつかご報告いただけるとわかりやすくなったのではないかと思います。
- ・総合大学が知名度や志願度という点で強いとは思っていましたが、自分がイメージしていたのと違う大学もあったので、何が志願度に影響するのかを考えることが必要だと感じました。私自身は大学経営に直接関わる立場ではありませんが、自身の大学のブランディングや高校生にいかに大学を知ってもらうか、具体的に実行できる方法を考える必要性を強く感じました。参加して良かったです。
- ・卒業後も保護者に情報提供する重要性、看護（学）を選択することの魅力キャリアとの関係でより発信する重要性を理解しました。
- ・自校に置き換えると難しさをより痛感した。
- ・大変参考になった。短期大学の今後が心配。
- ・大学生活のみならず、その先を提示することで大学に興味関心を持ってもらうということが広報活動として有効であることを理解できました。また、お話の中で自分から探すと言うより「何か出てきた」ことがその大学を知るきっかけになる、というのとても印象に残っています。大学は学生を確保しなければ維持できないので、定員確保できるようこれからの入試・広報活動に役立てていきます。
- ・どのように広報活動を展開していったらよいか、本学の魅力をどう伝えていけばよいかを考えさせられました。
- ・知名度と志願度が相関しない点、興味深かった。看護の魅力を如何に伝えるか、オールジャパンで取り組む必要があることを再認識しました。
- ・よく理解できました。
- ・本学でも、ブランディングが課題になっていますが、教授陣によるうわべだけの議論がなされています。具体的に、どのように考えていけばいいのかイメージが付きましました。本学や系列大学の認知度と志願率がかなり低いのは、ビックリしました。しかし、データを示して頂いて、それが現実であり、本気でブランディングを高める必要があることを、職位に関わらず述べていこうと勇気が湧きました。

3. 研修会全体

1) 企画について

	人数	割合
大変役に立った	64 人	61%
役に立った	40 人	38%
あまり役に立たなかった	1 人	1%
役に立たなかった	0 人	0%
合計	105 人	100%



2) ご意見、感想など

- ・とても為になるテーマでした。
- ・深刻な状況を痛感しました。日本における看護師の地位向上も含めた業界全体からの戦略が必要だと思います。
- ・修士課程も定員割れ問題が課題です。こちらについてもヒントが欲しいです。
- ・本学の生き残りだけでなく、看護師の可能性を発信していく必要性を感じました。
- ・看護系の志願など、参考になる資料はありがたかったです。欲を言えば、短期大学のデータは少数でも、あれば参考にしたかったです。
- ・厳しい状況で暗くなりますが、社会的に必要な分野ですので看護を志す若者に期待したいです。
- ・今回はとてもためになる企画だったと思います。各大学はもちろんですが、大学が力を合わせて全体で優秀な看護学生を増やすための方策を考えていきたいと思いました。
- ・入試広報の方法について、示唆を得ることができました。看護職の志願者を増やすためのキャリアパスの紹介については、他大学や看護協会とも連携していければよいと思いました。
- ・引き続き、今回の企画、テーマは毎年継続していただきたい。
- ・短期大学の状況は厳しいということが分かりました。また、PRも「検索を期待するのではなく」という言葉が心に残りました。
- ・今後の大学それぞれが検討すべきことであるテーマをタイムリーに設定していただいたことに感謝いたします。
- ・個人的には、今回のように進学情報会社の講演が参考になる。
- ・今、まさにこれから5年後、10年後～100年後をめざす方向性つくっていくところです。とても良い情報になりました。
- ・勉強になりました。
- ・高校教員に看護学というものが理解されていないことがうたがわれる、ということが一番の発見でした。
- ・私自身は大学経営に直接関わる立場ではありませんが、私立大学の教員として、何が必要なのかを真剣に考える機会になりました。大学の運営に対して意識を高めることができました。講義内容だけでなく、質疑応答の内容も大変勉強になり、参加して本当に良かったです。
- ・時宜にかなった良い企画だったと思います。
- ・今回の進研アド（ベネッセ）やリクルート、そして河合塾やフロムページ、スタディプラス（学習管理アプリ）などは様々な調査結果を持っていると思いますが、各大学ではお金がなくそのような大手と取り引き（契約）ができず、ゆえにこのような情報ももらうことができません。そのため今後もこのような大手からの調査結果・情報を今回のように協会経由でシェアしていただけると大変ありがたいです。また、このような調査結果・情報は、業者から聞いても広報担当者止

まりで学長含め教員にまで伝わらず（伝える機会がないですし、伝えても身内である職員からの話は真剣に聞いてくれない）、ゆえに現状への危機感が薄いまま、広報費は増えませんが改革も行おうとしません。今回のように協会として実施いただくと、学長含め多くの教職員が見て、課題や現状を共有できるので大変ありがたいです。今後も今回のようなテーマで継続して実施いただきたいと思います。

- ・ Z世代の入学者の特徴が、世の流れと合わせて理解できた。
- ・ どちらの講演も、今後の看護界、自大学のブランディングや学生確保を考えていく上で非常に参考になりました。漠然としていたことが、明確な危機感として認識できました。
- ・ 地方の私立大学は定員確保が難しくなっております。井上先生もおっしゃられていたように、看護系の大学全体として高校生に響く戦略をとっていかねばならないと思いました。毎年是非続けていただければと思います。
- ・ 大変興味深い内容でした。
- ・ 事前に質問を取っていただくなど、もう少し質問がしやすい状況ですとありがたいです。
- ・ 講演よりシンポジウムが面白いかもしれません。基調講演の後、発展させられるかも。

4. 今後、本協会「大学運営・経営委員会」で行う事業について

①希望するテーマ

- ・ ブランディングの具体施策について
- ・ 基礎看護学教育に必要な教育内容
- ・ リクルート進学総研の小林さんに講演いただきたい。
- ・ 修士課程も定員割れ問題が課題です。こちらについてもヒントが欲しいです。
- ・ 高大連携、高大接続について
- ・ 今回のようなテーマは毎年、新しいデータを基に実施していただきたい。
- ・ 離職率の高さについて
- ・ 毎年変化していく傾向を知りたいので、来年からも今回と同じようなテーマを継続してほしいです。
- ・ 入学前教育も他学の状況を知りたいです。
- ・ リスキリングについて
- ・ 多様な学生がいることや偏差値が下がってきている状況での教育上の課題についての取り組みなど
- ・ カリキュラム設計に関すること
- ・ 年明入試から年内入試への移行をどう捉え、どう考えるか？
- ・ 探求型学習をふまえた高大連携の実際、タブレット端末を使った学びの実際など新学習指導要領のもとでの高校における学びの成果と大学での活用方法
- ・ 看護系はまだ人材不足の時代が続くと思っております。海外から看護学生を呼び込むにはどんな戦略が必要なのか、ヒントが得られるとありがたいです。
- ・ 看護系団体の取り組みも重要だと思いました。看護系団体の取り組み、大学の取り組みなどの例が参考になると思いました。
- ・ 教員組織の活性化、教員の教育力向上の取り組みなど
- ・ ①高校生にとって魅力を感じるオープンキャンパス、大学案内、ホームページとはどんなものか
- ・ ②大胆な広報により受験生増加に転じた大学の具体的な広報方法・戦略・費用
- ・ ③奨学金について、どう高校生（受験生）や在学生に説明すべきか
- ・ ④様々な大学が実施する入学前教育と初年度教育の実例紹介
- ・ ⑤河合塾による全統模試結果解析
- ・ ⑥ナーチャリングと MA ツールの必要性
- ・ 入学者の学力低下に関する取り組みについて

- ・ 志願者数が多い大学の広報戦略をお聞きしてみたいです。

②開催時期

- ・ いつでもよい (3)
- ・ 1 月 (1)
- ・ 2 月 (1)
- ・ 4 月 (1)
- ・ 5 月 (2)
- ・ 6 月 (2)
- ・ 7 月 (2)
- ・ 8 月 (2)
- ・ 9 月 (1)
- ・ 10 月 (5)
- ・ 11 月 (2)
- ・ 春 (1)
- ・ 秋 (1)
- ・ 平日の日中 (1)
- ・ 月曜日 (1)

③開催方法

- ・ オンライン（ライブ配信とオンデマンド配信）(89)
- ・ 会場とオンラインのハイブリッド形式 (10)

④開催場所

- ・ 関西地区 (2)
- ・ 関東地区 (1)
- ・ 東北地区 (1)
- ・ 大阪 (1)
- ・ 東京 (2)

5. 渉外委員会

1. 趣旨

- ① 本法人の発展のため外部の組織に働きかけ、看護教育並びに看護専門職としての充実・発展に必要な国の制度や法令、文教行政や予算、高大連携についての確かな情報収集と分析・整理
- ② 文部科学省、厚生労働省関係、日本学術会議をはじめ、日本看護系大学協議会、日本私立大学協会、日本私立学校振興・共済事業団、中央教育審議会、大学設置・学校法人審議会等諸機関の活動状況の把握をし、必要な提携・協力及び支援活動を企画・実施
- ③ 啓発活動のためのセミナーの実施

2. 担当理事および委員（○：委員長）

○原 玲子（日本赤十字秋田看護大学）

荒木 暁子（東邦大学）

鎌田 佳奈美（摂南大学）

洪 愛子（神戸女子大学）

櫻井 しのぶ（順天堂大学）

3. 2024 年度事業活動報告

渉外委員会では、看護教育に関する関連省庁や関係団体の動きに関する情報収集及び関連団体との連携活動を行いながら、本協会の発展に向けた取り組みを検討するための活動を行っている。

（1）看護教育の問題提示と看護政策の要望提出

2024 年度の要望書の発出に際し、事前に会員校より意見を聴取した。出された意見を踏まえ、自民党厚生労働部会看護問題小委員会（9 月 10 日開催）に、2024 年度概算請求に対し下記のとおり看護教育の問題提示と看護政策の要望を行った。

- ・ 看護教員の養成と雇用および臨地実習施設における教育要員の配置
- ・ 看護学教育機関ならびに実習施設を含めた ICT の活用体制の整備
- ・ 看護学教育のためのシミュレーション機器等の整備の充実と教育支援の体制整備
- ・ 看護系大学が使用可能な教材作成や教育支援のためのプラットフォームの構築と構築に向けた調査・研究
- ・ 地域における「健康危機管理ができる看護人材の育成」のための看護学教育の改革

（2）関係諸団体との連携

8 月に、櫻井しのぶ理事が高度実践看護師 APN グランドデザイン委員会委員に就任、洪愛子理事が JANPU 高等教育行政委員会委員に就任した。各委員の活動は次の通りである。

- ・ 6 月 14 日：JABNE 定時評議員会 Web 会議に島袋香子理事が出席
- ・ 9 月 3 日：高度実践看護師 APN グランドデザイン委員会開催
- ・ 9 月 9 日：JANPU 高等教育行政委員会 Web 会議開催

- ・ 9 月 10 日：自民党看護問題小委員会に洪愛子理事、櫻井しのぶ理事が出席
- ・ 9 月 19 日：高度実践看護師 APN グランドデザイン委員会 NP チーム会議に櫻井しのぶ理事が出席
- ・ 9 月 30 日：小阪佳代氏（日本看護連盟副会長、石田まさひろを応援する会会長）、高原静子氏（日本看護連盟 会長）高橋弘枝氏（公益社団法人日本看護協会会長）柳谷博幸氏（日本看護連盟常任監事）氏が往訪
看護連盟からは、若い看護師、看護学生にも夢のある看護、看護政策への参画を促進させていきたいことや、自民党看護問題小委員会への要望書提出については看護関係の団体との情報連携を進めていきたいとの発言があり、看護問題について話し合った。
- ・ 10 月 21 日：高度実践看護師 APN グランドデザイン委員会に櫻井しのぶ理事が出席
- ・ 11 月 1 日：JANPU 高等教育行政委員会に洪愛子理事が出席
- ・ 11 月 29 日：高度実践看護師 APN グランドデザイン委員会に櫻井しのぶ理事が出席
- ・ 12 月 13 日：高度実践看護師 APN グランドデザイン委員会に櫻井しのぶ理事が出席
- ・ 12 月 19 日：高度実践看護師 APN グランドデザイン委員会に櫻井しのぶ理事が出席
- ・ 1 月 17 日：日本看護協会新年賀詞交歓会に荒木暁子理事が出席
- ・ 1 月 17 日：JANPU 高等教育行政対策委員会に洪愛子理事が出席
- ・ 3 月 3 日：JANPU 高等教育行政委員会に洪愛子理事が出席
- ・ 3 月 19 日：高度実践看護師 APN グランドデザイン委員会に櫻井しのぶ理事が出席

(3) 教育学術新聞への掲載

日本私立大学協会が発行する教育学術新聞に令和 6 年私学関係者「名刺交換」、令和 7 年私学関係者「名刺交換」に掲載した。

(4) 委員会の開催

日時：2025 年 2 月 10 日（月）

開催方法：対面と Web

議題：

- 1) 2024 年度事業活動報告について
- 2) 2025 年度事業活動計画案について

4. 今後の課題

関係諸団体の活動状況の把握をさらに進め、必要な提携・協力及び支援活動を企画・実施に移す。

6. 広報委員会

1. 趣旨

- ① 本法人の目的の達成に寄与するため会報・その他刊行物の発行
- ② 会員校への情報伝達及び会員校間の情報交換
- ③ 本法人の活動の外部への PR のためホームページの企画運営

2. 担当理事および委員（○：委員長）

- 鎌田 佳奈美（摂南大学）
- 宮城 由美子（福岡大学）

3. 2024 年度事業活動報告

(1) 会報第 51 号・52 号の発刊

1) 会報第 51 号は 2024 年 5 月 1 日に発刊

- ① 2023 年度事業活動報告
- ② 会員校の特色ある取り組みの紹介
- ③ 愛知県地区活動プロジェクトの報告
- ④ 理事会報告
- ⑤ 事務局からのお知らせ

2) 会報第 52 号は 2024 年 11 月 1 日に発刊

- ① 会長挨拶
- ② 新規会員校紹介
- ③ 社員総会付帯事業講演会
- ④ 2024 年度研究助成事業の選考結果報告
- ⑤ 役員一覧
- ⑥ 社員総会／理事会報告
- ⑦ 事務局からのお知らせ

(2) ホームページ

ホームページの利用状況を定期的に分析し現状を把握して、課題に対する改善策を検討している。

(3) 2023 年度年次報告書の発刊

2024 年 6 月に発刊

(4) 委員会の開催

第 1 回広報委員会

日時：2024 年 4 月 22 日（月） 14：30～15：40

開催方法：Zoom を用いた Web 会議

参加者：鎌田 佳奈美、濱中 喜代、守田 美奈子

コーディネア（株）河口氏

議題：

- 1) 看護学を学ぶ魅力発信事業について
- 2) ホームページについて
- 3) 2024 年度事業活動計画について

第 2 回広報委員会

日時：2024 年 7 月 24 日（水）～25 日（木）

開催方法：メール会議

参加者：鎌田 佳奈美、濱中 喜代、守田 美奈子

議題：

- 1) ホームページについて
 - (1) アクセスレポートの報告
 - (2) 会員校情報ページの改修案について
- 2) 会報第 52 号の記事構成について

第 3 回広報委員会

日時：2024 年 8 月 28 日（水） 10：00～10：45

開催方法：Zoom を用いた Web 会議

参加者：鎌田 佳奈美、宮城 由美子

議題：

- 1) 2024 年度委員会活動について
- 2) 会報第 52 号について
- 3) ホームページについて
- 4) スケジュール

第 4 回広報委員会

日時：2024 年 11 月 5 日（火） 11：00～12：00

開催方法：Zoom を用いた Web 会議

参加者：鎌田 佳奈美、宮城 由美子

コーディネア（株）河口氏、中井氏

議題：

- 1) ホームページについて
- 2) 2024 年度事業活動報告、会計内訳について
- 3) 2025 年度会報の電子化について

第5回広報委員会

日時：2025年1月29日（水） 11：00～12：00

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

参加者：鎌田 佳奈美、宮城 由美子

コーディア（株）中井氏

議題：

- 1) ホームページについて
- 2) 会報第53号について
- 3) 2024年度事業活動報告、会計内訳について
- 4) 2025年度事業活動計画、予算について

4. 今後の課題

- 1) 協会全体の計画と方針を基に看護の魅力を社会に発信するための広報活動の検討を行う。
- 2) HPに関する定期的な業者との打ち合わせ会議を継続すると同時に、迅速かつ適切な情報配信を行うことでHPの充実を図る。
- 3) 会報発行（年2回）を継続すると同時に、さらなる紙面の充実を図り、電子化について継続検討する。

7. 将来構想検討委員会

1. 趣旨

- ① 本法人の役割と機能の強化に向け、私立大学としての課題と看護学教育及び看護学研究の具体的な課題の明確化と今後の方向性について具体的方策の提案

2. 担当理事および委員（○：委員長）

○ 原 玲子（日本赤十字秋田看護大学）

鎌田 佳奈美（摂南大学）

洪 愛子（神戸女子大学）

櫻井 しのぶ（順天堂大学）

（委員）

坂本 真理子（愛知医科大学）

島袋 香子（北里大学）

長澤 正志（淑徳大学）

三国 久美（北海道医療大学）

3. 2024 年度事業活動報告

(1) 委員会の開催

第 1 回 将来構想検討委員会

日時：2024 年 11 月 20 日（水）～ 30 日（土）

開催方法：Web およびメール会議

議題：私立看護系大学将来構想研究機構（仮称）の設置に向けた検討

- ・ 2023 年度の理事会において、私立看護系大学に関する課題を踏まえ、本協会として、私立看護系大学に関する統計データや分析を進めて、協会として政府に要望する根拠をより明確にするため、私立看護系大学将来構想研究機構（仮称）の設置や具体的な運用方法などを継続して検討する方針が示され、設置の可能性を探索するための検討を 2024 年度委員会に引継がれた。
- ・ 2023 年度将来構想検討委員会よりこれまでの経緯や背景などについて確認を行った。意義、実現可能性、設置後の成果や運営などを考慮し、設置の是非を含め検討する必要がある、第 3 回定例理事会において報告した。
- ・ 今期の委員会では、研究機構設置の実現可能性、運営における継続性等について、本協会における予算規模で、研究員や事務局の人材を確保し、独立して安定した運営が可能であるか、会長の兼任が可能であるか等を検討した。機構の実現可能性および継続した運営の可能性を視野に入れた場合、設置は慎重に考え、当面、凍結することとなった。

第 2 回 将来構想検討委員会

日時：2025 年 2 月 10 日（月）

開催方法：対面と Web

議題：

- (1) 2024 年度事業活動報告について
- (2) 2025 年度事業活動計画案について

本協会の役割と機能の強化に向け、私立看護系大学がもつ課題の明確化と今後の方策について検討した。

4. 今後の課題

会員校は、看護の質向上や人材育成だけでなく、地域住民の健康支援を行う役割を担っており、感染症の流行や災害等の発生時には住民の健康危機に対応すべく尽力している。会員校の更なる連携と協力を推進させるために求められる本協会の事業活動を検討する。

また、少子化の進行に伴う志願者の減少など私立看護系大学を取り巻く厳しい現状がある。今後の私立看護系大学のあり方について検討が必要である。

8. 地区活動委員会

1. 趣旨

- ①地区活動を通じたネットワークづくりにより、私立看護系大学の協働体制を進め、安定した看護学教育の推進
- ②私立看護系大学が共有する課題に協働して取り組む活動への助成事業の実施
- ③看護学の発展を担う人材を確保する活動のための助成事業の実施

2. 担当理事および委員（○：委員長）

○篠崎 恵美子（人間環境大学）

池田 恵美子（四国大学）

（委員）

坂本 真理子（愛知医科大学）

坂 亮輔（人間環境大学）

渡部 光恵（四国大学）

3. 2024 年度事業活動報告

（1）地区活動プロジェクト

会員校の地区における協働を進め、看護学教育の発展に寄与する新たな活動の在り方を探索することを目的とし、各地区の会員校の協働活動に助成を行った。8月31日から10月1日に募集を行い、4件の応募があった。申請内容と予算を精査し妥当な助成額を決定し、4件を採択とした。

・北海道・東北地区

プロジェクト名：暮らしの場で学ぼう！～看護職員 卒後フォローアップ研修～

協働する会員校：北海道医療大学看護福祉学部看護学科、天使大学看護栄養学部看護学科、日本医療大学保健医療学部看護学科、北海道科学大学保健医療学部看護学科、北海道文教大学医療保健科学部看護学科

・中部地区

プロジェクト名：大学教員対象 オープンキャンパス「他大学をみてみよう！」

協働する会員校：愛知医科大学看護学部看護学科、一宮研伸大学看護学部看護学科、金城学院大学看護学部看護学科、椙山女学園大学看護学部看護学科、中部大学生命健康科学部看護学科、豊橋創造大学保健医療学部看護学科、名古屋学芸大学看護学部看護学科、名古屋女子大学健康科学部看護学科、日本福祉大学看護学部看護学科、人間環境大学看護学部看護学科、藤田医科大学保健衛生看護学部看護学科

・中部地区

プロジェクト名：WEB 看護学科訪問～看護の授業を AI アバターと一緒に体験しよう！～

協働する会員校：富山福祉短期大学、金沢医科大学

・関西・近畿地区

プロジェクト名：おおさか・臨地実習にかかわる教員と臨床指導者 FD 研修プロジェクト
協働する会員校：関西医療大学、千里金蘭大学、藍野大学、大阪成蹊大学、大阪信愛学院大学、四條畷学園大学、摂南大学、梅花女子大学、大阪青山大学、森ノ宮医療大学

(2) 地区会議の開催

当番校（四国大学）が企画を担った。

日時：2024 年 12 月 21 日（土）10：00～13：30

開催方法：対面と Web によるハイブリット

開催場所：ホテルグランフォーレ（愛媛県四国中央市三島朝日 1 丁目 1-30）

議題：「入学前教育のあり方」

対象：四国地区の会員校 5 校

当日参加者：会場参加 10 名、Zoom 参加 1 名

活動報告：

日本私立看護系大学協会四国地区の会員校 5 校が集まり、入学前教育に関する課題や取り組みについて、意見交換を行った。各大学の現状や課題を共有し、学生の学習習慣や基礎学力の向上、早期合格者のモチベーションの維持などが主な話題となった。

高校との連携や入学後の学習との関連性についても議論され、学生の基礎学力、読解力の改善、などの様々な観点から意見を交換し、効果的な看護学教育の在り方についても検討した。入学前教育の効果的な内容や方法について、高校での学習と大学での学びをつなぐ内容の重要性を確認し、課題の効果的な提示方法や、難易度や頻度、提出方法について意見が交わされ、e ラーニングなど様々な学習形態、実施時期、対象者、費用負担などの情報を共有した。学生の学習習慣の定着や基礎学力向上が課題として挙げられ、e ラーニングでは進捗確認が可能であり学習傾向を把握するための取り組みも行われているとの情報提供もあった。また、全学で統一した取り組みとなると、看護学部としての課題の目的や意義を明確にすることが難しいとの意見がある一方、看護や医療に特化した生物や数学などのコンテンツを提供していることも言及された。

入学後の学生の読解力不足と学習習慣の未定着の問題についても議論された。多くの学生が長文を読むことや問題文を最後まで読むことが苦手であり、これが国家試験や学業全般に影響を与えていると懸念が示された。他にも以下について話し合われた。

- ・災害時の学生の安否確認システムや対応方法について
- ・実習期間中に災害が起きた場合の実習先との連携について
- ・災害発生時に備えた平時からの大学間の関係構築の重要性について
- ・実習時のスマートフォン使用ルールについて
- ・チャット GPT などの AI ツールの適切な使用方法について
- ・電子教科書やデジタル機器の導入について

(3) 委員会の開催

第 1 回地区活動委員会

日時：2024 年 8 月 25 日（日）12：30～13：50

会場：JW MARRIOTT NARA（奈良県奈良市三条大路 1-1-1）

出席者：（理事）池田 恵美子、篠崎 恵美子、（委員）坂 亮輔

議題：

- 1) 2024 年度委員会活動
- 2) 助成事業について
- 3) 地区会議の開催について
- 4) その他

第 2 回地区活動委員会

日時：2024 年 10 月 10 日（木）17：00～18：00

開催方法：Zoom を用いた Web 会議

出席者：（理事）池田 恵美子、篠崎 恵美子、（委員）坂本 真理子、坂 亮輔、渡部 光恵

議題：

- 1) 助成事業の採択
- 2) 地区会議（四国）の開催について

第 3 回地区活動委員会

日時：2025 年 1 月 27 日（月）13：00～14：30

開催方法：Zoom を用いた Web 会議

出席者：（理事）池田 恵美子、篠崎 恵美子、（委員）坂本 真理子、坂 亮輔、渡部 光恵

議題：

- 1) 2024 年度事業活動の振り返り
- 2) 2025 年度事業活動計画案について
 - (1) 助成事業について
 - (2) 地区会議について
- 3) 今後のスケジュール
- 4) その他

4. 今後の課題

地区活動の在り方、各活動を会員校へ周知していく方法を検討する。

9. 2024 年度特別事業

1. ポストコロナにおける看護学教育推進事業

2024 年度、本協会は看護学教育の質の維持向上や地域の健康支援に奮闘している会員校と共に、新たな時代に向けた看護学教育を推進することを目的とし、特別助成事業としてポストコロナにおける看護学教育推進事業を実施しました。会員校が助成を受けられる機会は1回、金額は10万円です。

応募期間は2024年7月17日から9月30日までとし、209校中140校より申請があり140校に助成しました。助成を受けた会員校から助成金の使途と会計内訳の報告を受けました。

(主な申請内容)

- ・日本看護学教育評価機構への入会、受審
- ・看護学教育機関ならびに実習施設を含めた ICT の活用体制の整備（クラウド型の臨地実習記録システム導入・運用経費への支援等）
- ・看護学教育のためのシミュレーション機器等の充実整備と教育支援の体制整備
- ・看護教員の養成と雇用および臨地実習施設における教育要員の配置
- ・CBT 試験の導入、整備のための費用
- ・学修成果可視化システム等にかかる費用
- ・臨時実習等に係る消耗品等の購入

2. 看護の魅力発信事業

中高生と進路選択の際のキーパーソンである高校の進路指導の教員や保護者を対象に看護学を学ぶ魅力を発信するとともに、会員校の広報活動を支援する看護の魅力発信事業を実施しました。

(1) 広告動画の作成と SNS での展開

看護の魅力と多様性を表現した動画を作成し、SNS（Instagram、TikTok、YouTube）で公開しました。動画から本協会の会員校情報ページへ遷移させ、各会員校（看護学部）への流入を促進させることが狙いです。

配信期間

TikTok、Instagram：2月3日から4月28日まで

YouTube：2月7日から4月28日まで

(主な対象者：人文科学・社会学・教員養成／教育学・生活科学・保健衛生学・理学・薬学を志望する高校1・2年生)

(2) 特設 Web ページの公開

2月4日より本協会ホームページに「看護の多様な可能性」の Web ページを公開しました。2月14日からは株式会社ベネッセコーポレーションのマナビジョン内の職業検索ページと連携させて看護を志望する中高生やその保護者を本協会ホームページの会員校情報ページへ誘導し、各会員校（看護学部）Web ページへの流入を促しました。

(3) 探究学習を接点とした高校へのアプローチ

2022年度から高校の授業に本格導入された高校の新たな科目「総合的な探究の時間」での探究活動を通じた訴求として、「総合的な探究の時間」の副読本冊子『探究×SDGs-地域課題解決とキャリア』（朝日新聞社）に看護と社会課題を語る記事を掲載しました。「探究学習」を通じて将来の学びと看護の魅力を接続させることが狙いです。生徒が自分にとって関わりの深い課題として看護を探究するきっかけを作り、看護大学の情報にアクセスし看護職を目指す学生を増やすことを目的としています。

高校の探究学習では、生徒の主体性が重視され、自分にとって身近なテーマを課題として設定することが理想とされています。その点で、看護分野は探究学習のテーマとして適している可能性があるため、看護と身近な社会課題や隣接する学問系統との結びつきを示す記事内容としました。18,550冊、2,525校の学校へ配布されました。

(Web版：<https://www.asahi.com/ads/tankyu-sdgs/>)

(4) 会議の開催と概要

2024年4月22日：キックオフ会議 対象者、実施内容の検討

7月8日：動画広告クリエイティブの方向性について

7月12日：役員交代に伴う本事業の引継ぎ

8月5日：「探究×SDGs」副読本教材企画テーマについて

9月4日：事業概要の詳細検討、朝日新聞社の副教材の取材、記事校正、写真、図表修正のメール審議を重ねた。

9月30日：動画について、職業紹介について検討し、以後メール審議を重ねた。

11月11日：今後の進行について再検討、進捗の確認

12月6日：キャラクターデザインの確認、副教材記事内容の確認と修正、動画配信設定の検討、看護の魅力 Web ページの構成とデザイン検討

2025年1月8日：動画仮編集、ナレーション音声確認、マナビジョンバナー確認、Web 広告セグメント配信期間確認、Web ページの確認

2月10日～：成果確認、理事会報告